フィジカルメッセージ

向 正義



成年コミック

XCOMICS


フィジカルメッセージ
向正義

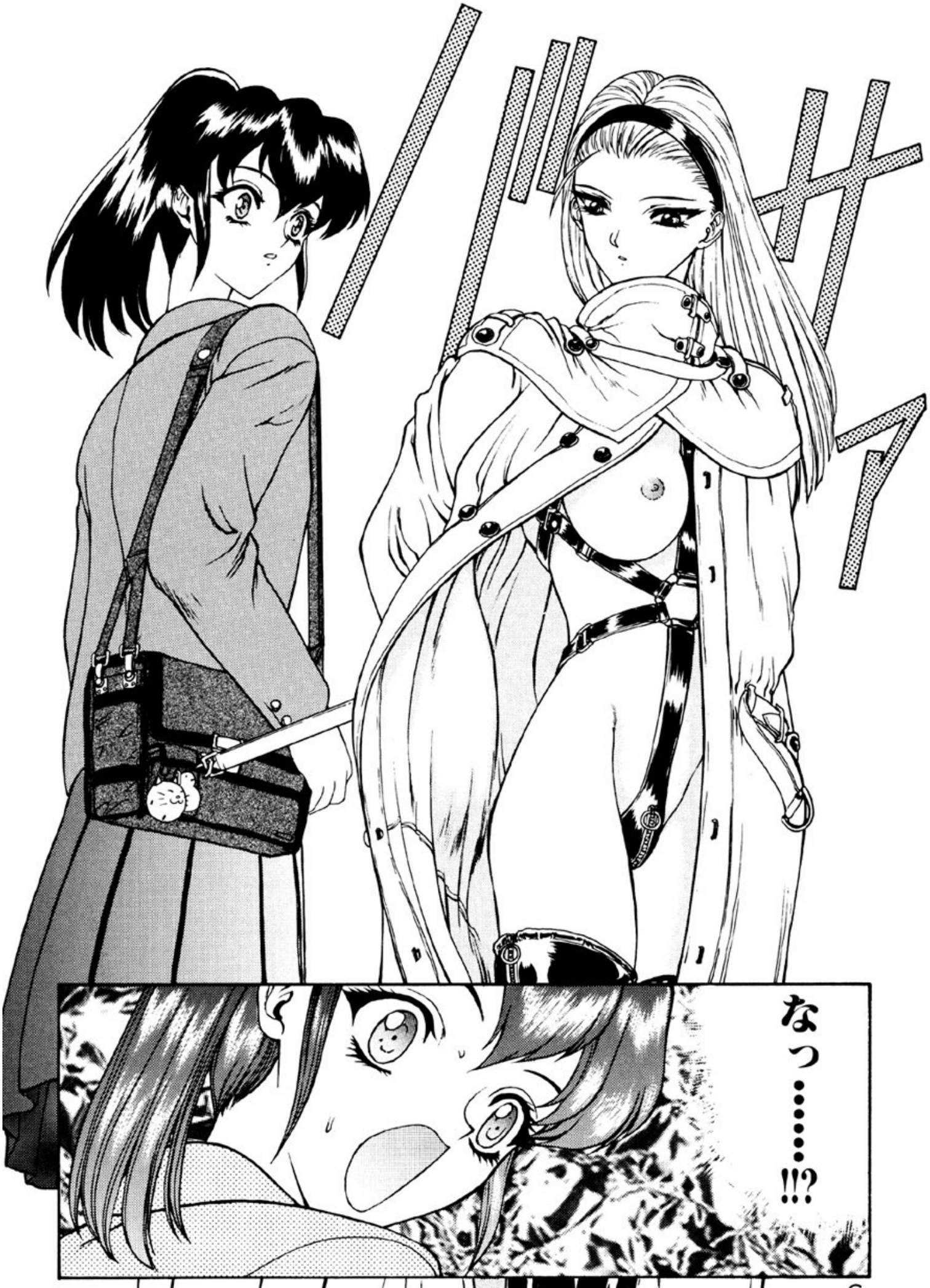
CALL ME TONIGHT

〔前編〕




近道なんて
しなきゃ
よかったな
いやなのよね…
夜のこの公園
注意!!
ここはあなたを
ねらっている!!
ホントに
いかにもって
感じのところだし
……
!?


コツ
コツ
――あれ？……
あの女……
綾部さんじゃない
同じクラスの……
でも なんだろ…
あの格好
いくら
夜だからって…
もう初夏なのに
あ…
あの……
綾部さん？
……
コツ
コツ
カチャッ
クイ
あ……
ビク!!


なっ……!!?


あ…
あのっ……
ごめんなさい!!
私……
けっしてわざと
やったわけじゃ
……
そ…
その……
私……
急いでるから
……
ダッ
さ…
さよならっ!!!
……

あーあ……
昨夜はホント……
ビックリしちゃったな

よりによって
同じクラスの女(ひと)が
……
あんなこと
してるなんて
……

で…でも
……
あれって本当に
綾部さんだったのかな
……

もし そうなら
あんなに
落ち着いてられるわけ
ないし……
それに
信じられないよ
あの
綾部しのぶさんが……

CALL ME TONIGHT〔前編〕

容姿端麗――
成績優秀――
スポーツ万能――

そのうえ たしか家は
すごい資産家だって聞いてるし…
なんとなく近よりがたいくらい
完璧なお嬢様だものね――

その彼女が
あんな……

あんな格好をして
夜の公園へ……

コートを
めくったら……

その下は
もう――

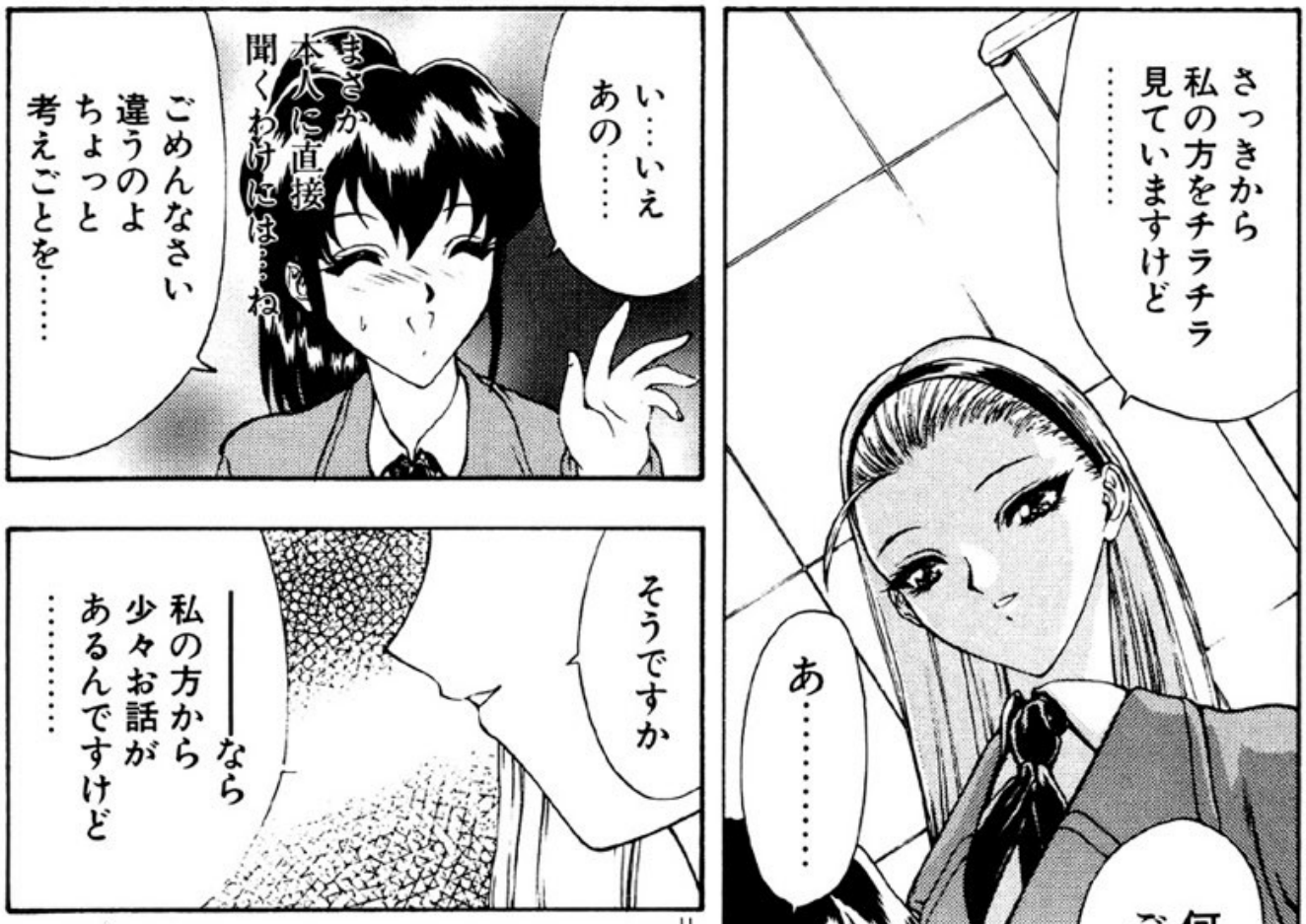
ドキ


やっぱりスリルを
味わうため
…なんだろうな
で…でも もし
あんな姿のまま
痴漢か何かに
襲われたら……


って
や…やだ!!


何考えてるのよ
私ってば……
しかも論点が
ずれてるじゃない!!
いつのまにか……
!?
堀井…美咲さん

CALL ME TONIGHT〔前編〕

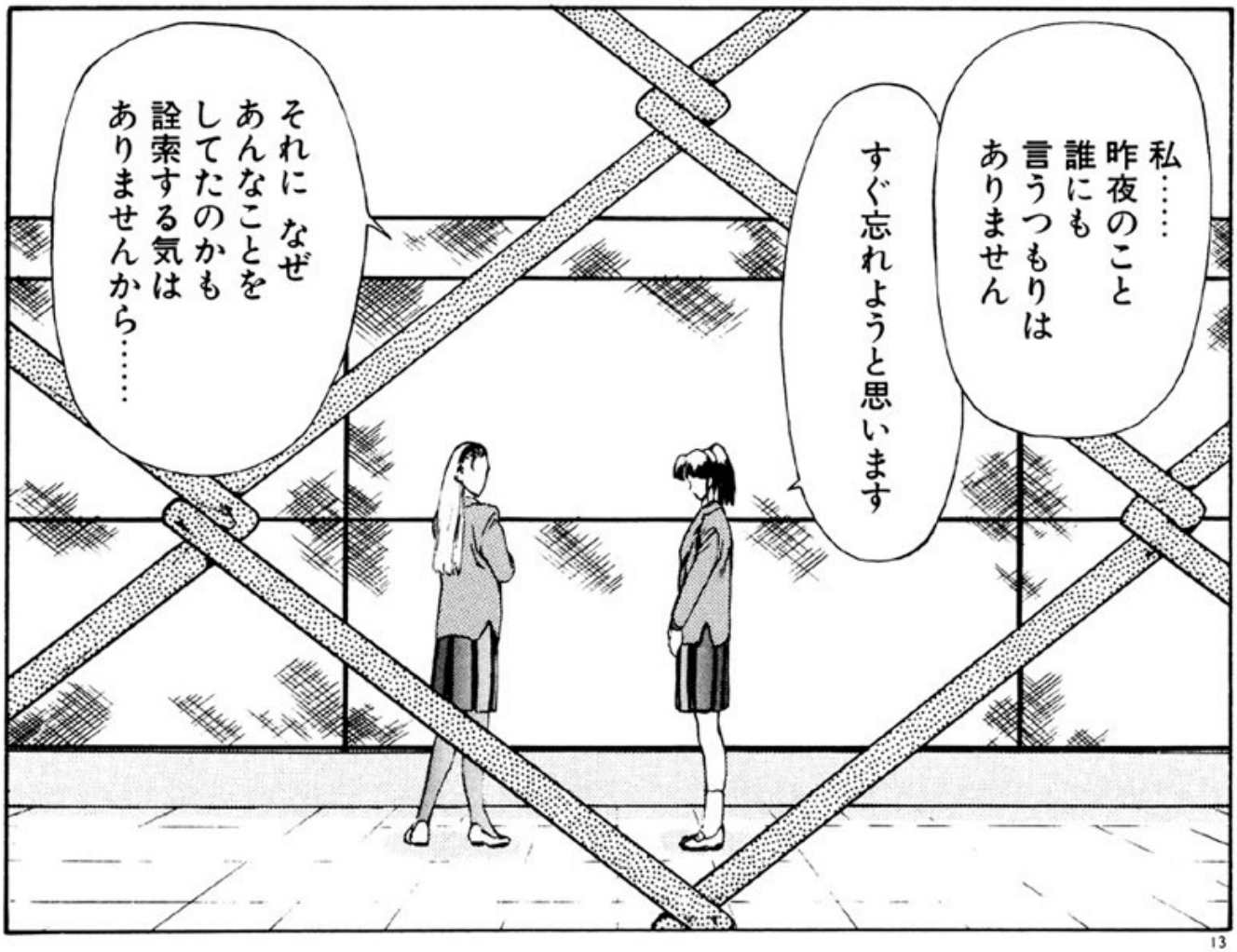







やっぱり
昨日の女は
すみませんね
わざわざ
呼び出したりして
じゃ…
じゃあ……
あ…あの
綾部さん……
昨夜 公園で
会ったのは……
ええ もちろん
私ですよ
フフ…あの時は
とんでもない姿を
お目にかけて
しまいましたね
おわかりでしょうけど
こんなところまで
きていただいたのは
……
そのことについて
あなたと二人きりで
話がしたかったから
なんです
そりゃ そうよね
もし あんなことが
みんなにバレたら……
あの…
それなら
安心して下さい

CALL ME TONIGHT〔前編〕






な……
バ…バカバカ
なんで聞いちゃうのよ
何か
あったんですか？
今詮索しないって
言ったばかりじゃない
レイプ
されたのよ
二人組の
男にね……


あなたと別れてから二十分後くらいだったかな……
いきなりうしろからはがいじめにされてね……


あっというまに林の奥へ連れこまれたの
しかもあれはどう見ても浮浪者だったわ
年齢はまあ…二人とも四十代後半ってところだったかしら
な…何!?
なんなのよこの女(ひと)……
どうして平然と…こんなことを話せるの!?


!!!?


一応 抵抗は
してみたんだけど…
無駄な努力だったわ
しょせん女の力ではね
コートの下の
私の姿を見た時は
すごく喜んでね…
あなたはびっくりして
逃げちゃったけど……
「期待してやがったのかよ
この変態女」…なんてことも
言われたの
だからかな
いちいち聞いてくるのよ
「何をしてほしいんだ?」
「これは なんなんだ?」
…なんてね 私はどんな
恥辱的な問いにも
答えさせられた……


そして
犯されたわ
何度も何度も……
三つの穴は
もちろん…
胸も――
手も――
足も――
身体中すべてを使われて
男達の欲情の
はけ口にされたのよ
あの時の私は
もう人間とは
言えなかった
そうね…
言うなれば
男の性欲を満たすためだけに
生きている肉人形(ダッチワイフ)――
それがあの時の
私だったわ……


ガシャッ
あ……
あ……
ああ……
わかっているの…!?
この女(ひと)
自分で何を言ってるのか
わかっているの!?
フフフ……
どうしてあなたに
こんなことを
話したんだと思う
……?


あなたにも
知って
もらいたいのよ
……
私と同じ
快感を――
そして……
私の……中の……？
ガシャ
!!?
バサ
ほら
その証拠に
……
えっ…!?
こんなに
なっちゃってる
今の話と
自分の身を重ねて
考えてたのね
あなたの中にある
「女」を開放して
あげたいの
私にはわかるのよ
あなたは私と
同じにおいがする
って――


――っあ……
う…うそ…
なんでこんな……
思ってたんでしょ？
自分の
この熱い秘壺に
ち…違う!!
違うよ!!!
浮浪者達の
小汚いペニスが
突きたてられて……
私はそんな女じゃ――
ズブズブっと
音をたてながら
入りこんでくるのを
……
チュク
チュチュ
あ……
はあ…あ
自分の身体が今…
男達の性欲を
満たすためだけの道具に
されてるってことを――
あ…あ
自分が今…
見ず知らずの男達に
抱かれてるってことを
そして
何度も何度も
突き入れられるうちに……
あ……
はあっ……
あなたは
実感するの――

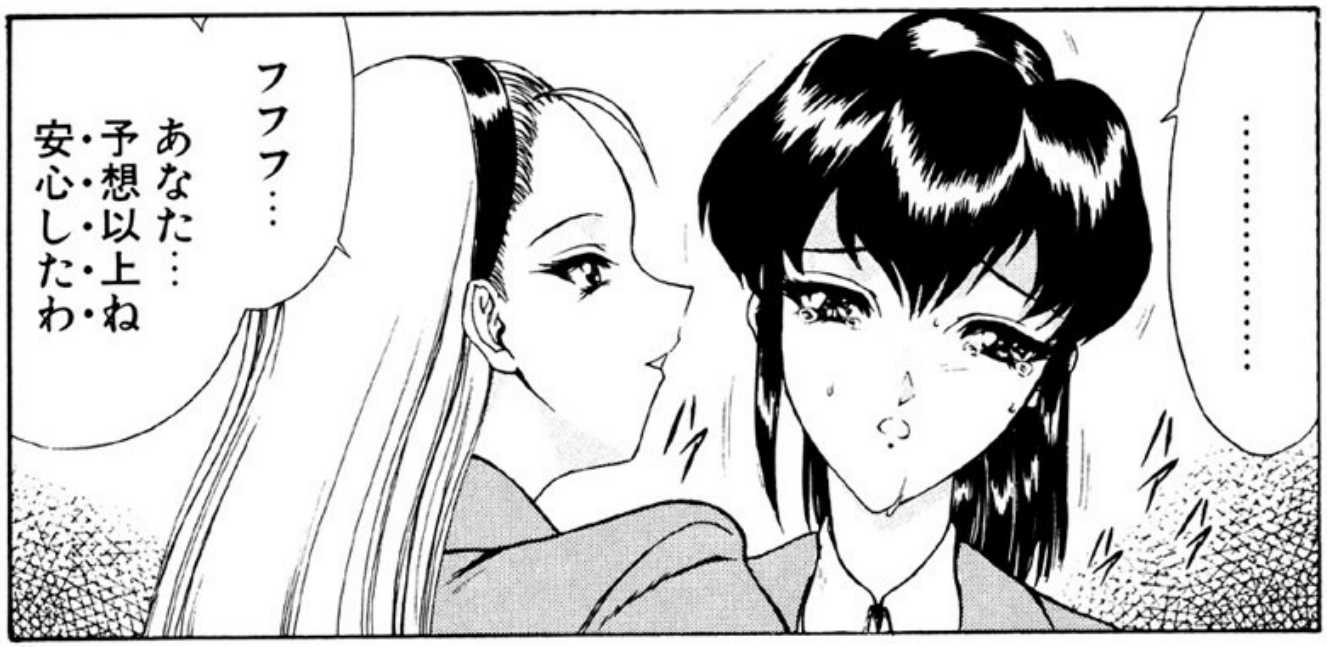
そして——

それを自分自身が快楽と感じてしまってるということを——

あああああ

ビクビク

パシャ…





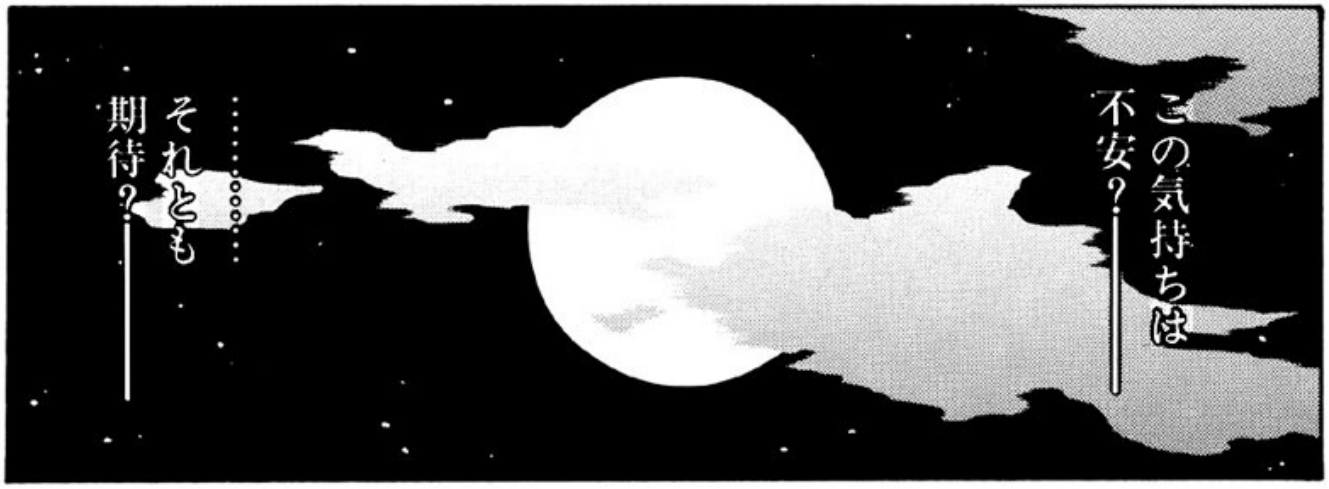


今の私には……

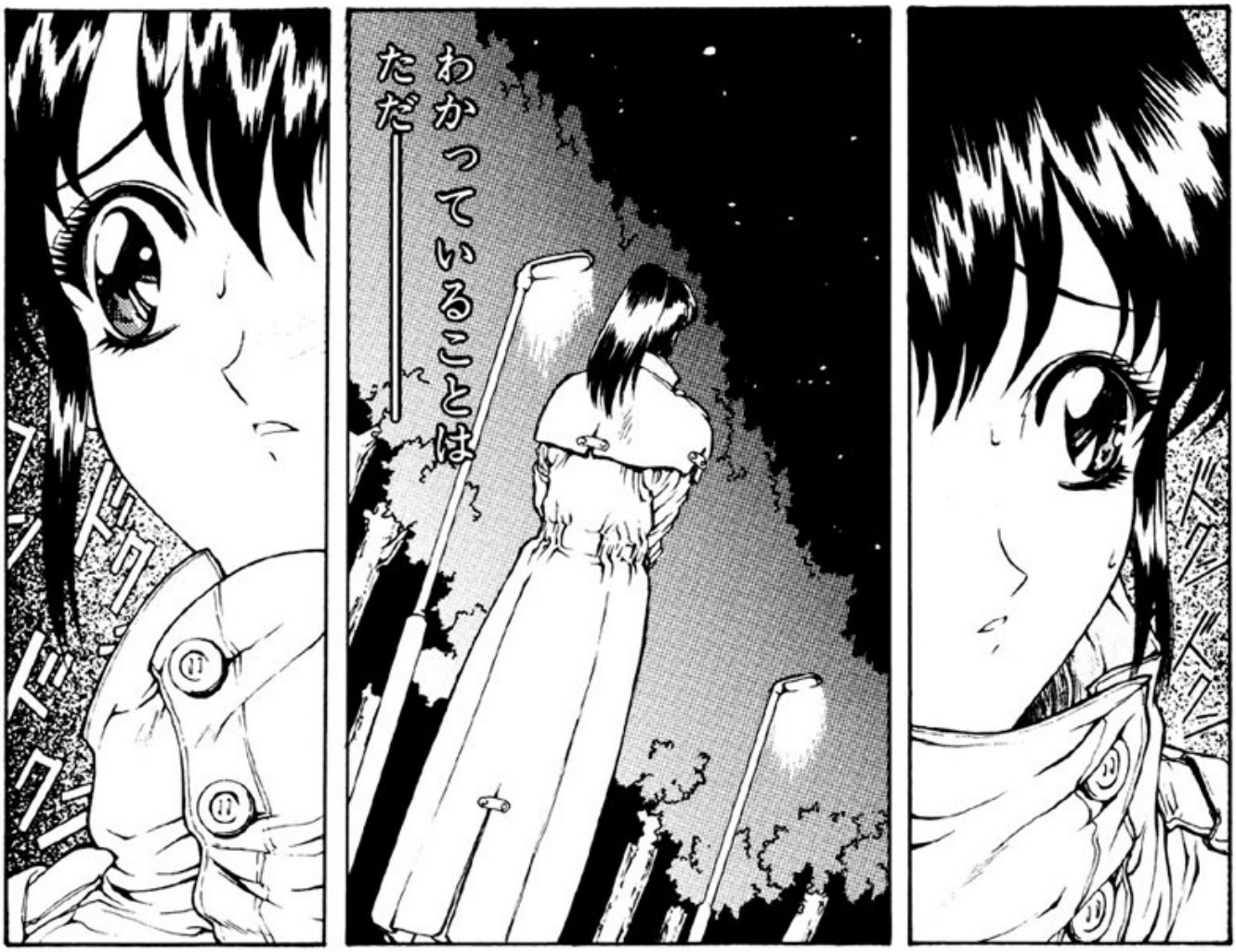


抗う術も…
そうする理由も
ありませんでした……

CALL ME TONIGHT〔後編〕








CALL ME TONIGHT
〔後編〕
今夜……
私の中で…
確実に何かが変わるであろうということだけ——

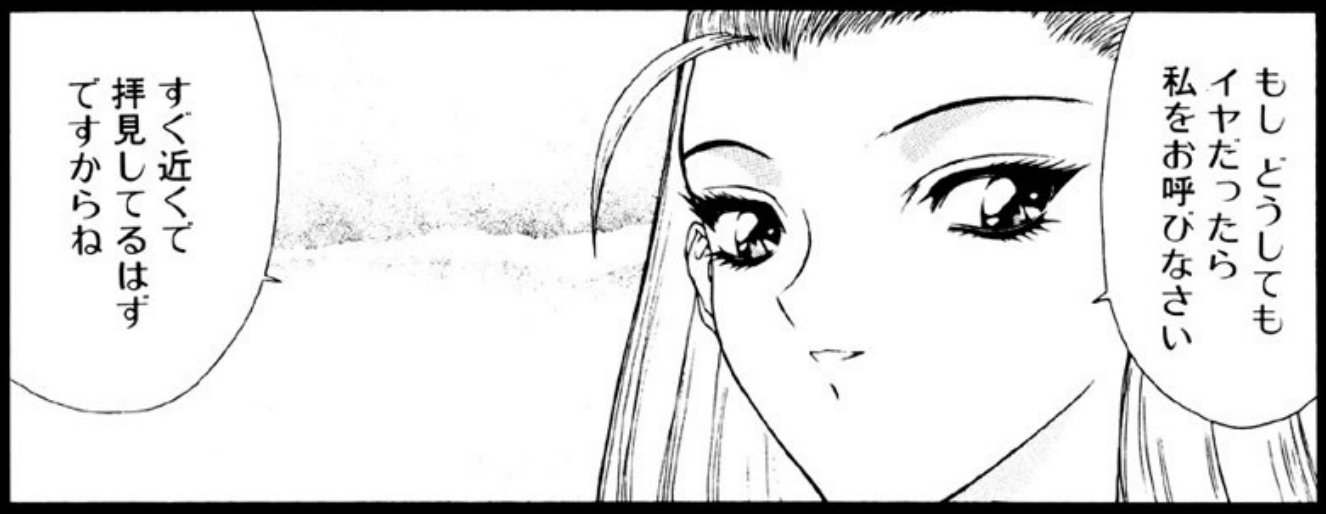

昨夜の
綾部さんと
同じことをですか?
た…ためしに
やってみなさい
って……


そうよ
それが一番
手っとり早いでしょ?


本当の自分を
知るためには
私…
まどろっこしい
やり方は
きらいなのよ


で…
でも……
まあ…
たしかに すべてが
本番というのも
刺激が強すぎる
でしょうから……


今夜は
うちの使用人が
お相手するわ
ザン
気が向いたら
そのまま
抱かれればいいし
……


もし どうしても
イヤだったら
私をお呼びなさい
すぐ近くで
拝見してるはず
ですからね


は…あ……
だからこれは
あくまでも
フェイク
お遊び
なんだから……
気楽に
考えなさいな
ガク


フフフ…本当に
ひさしぶりね
こういうの……
楽しみだわ
堀井さんが
どんな反応をするか……


さて…と
そろそろ
くる頃ね
あいつら
うまくやれば
いいけど……






だいたい
このあたりだって
言われたけど……
たしかに
うってつけのところよね
明かりも
ほとんどないし……

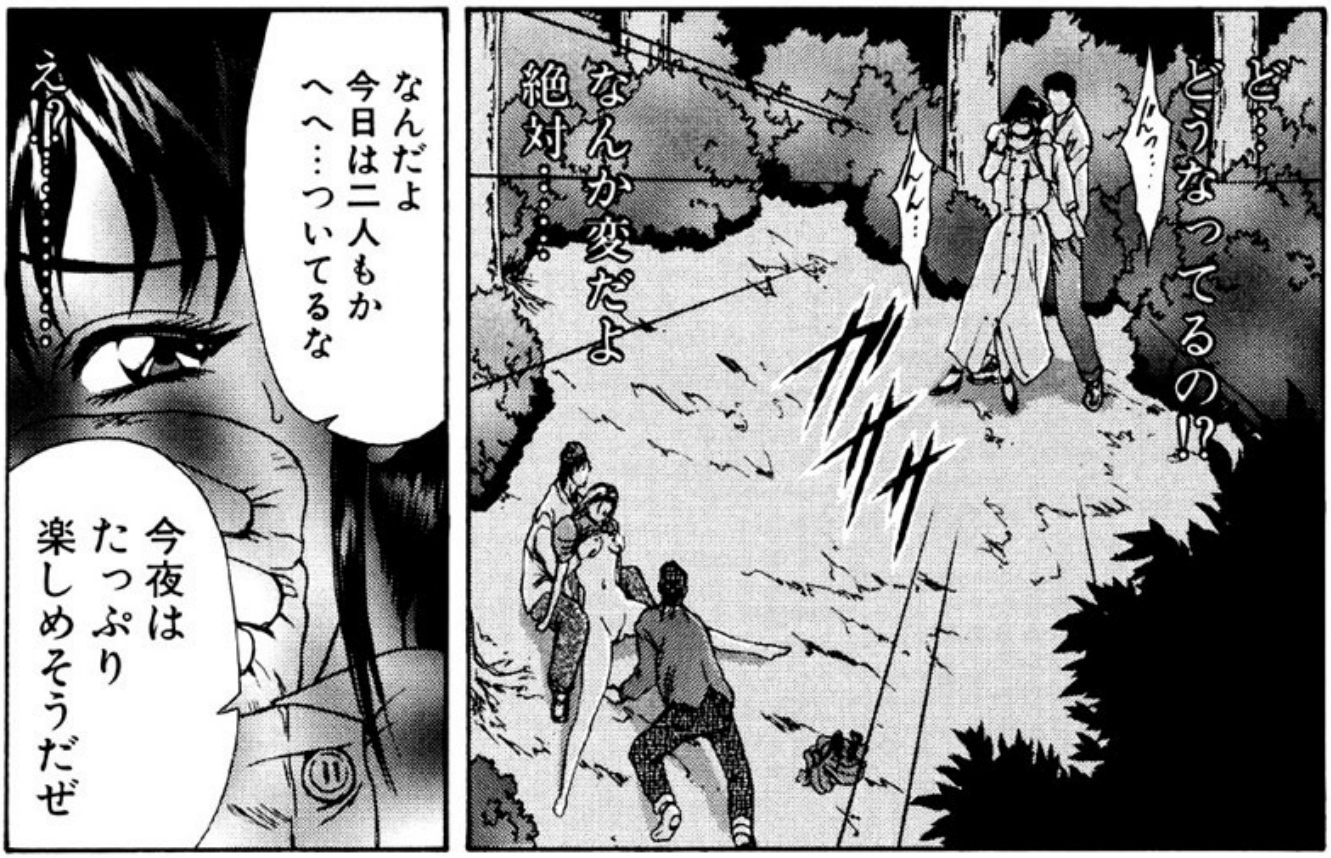

ガサ
ビク


きた!!!
バッ

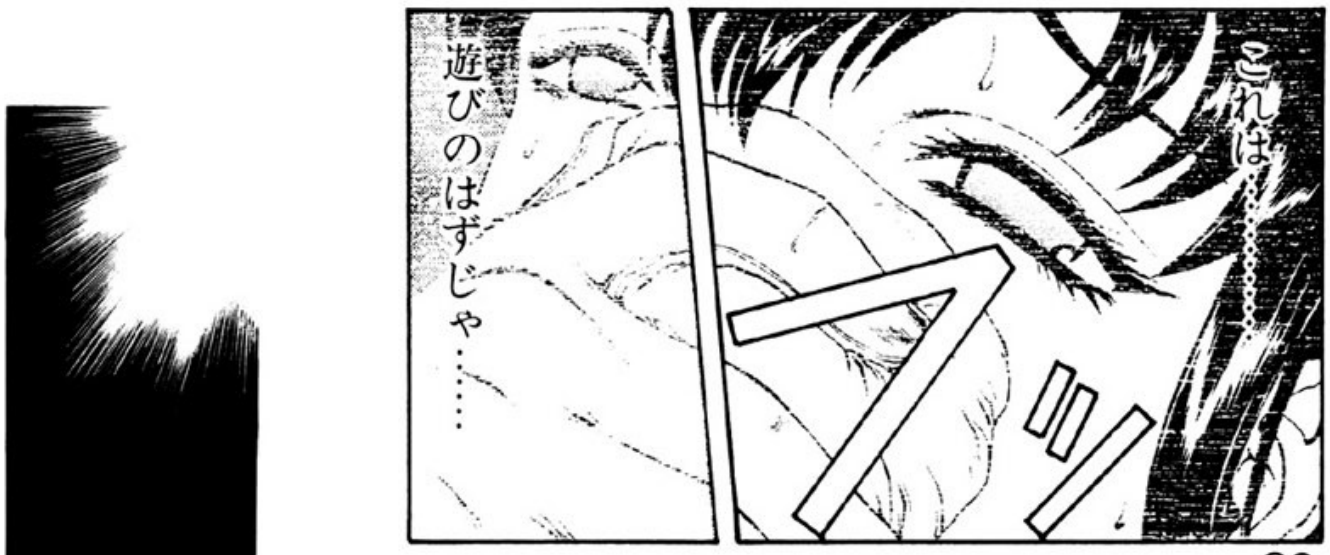

!?
え
何!?……あれ
ウチ
ヒル
ナニ


綾部……さん!?


な…
なんで……
どうして
綾部さんが…?
!?

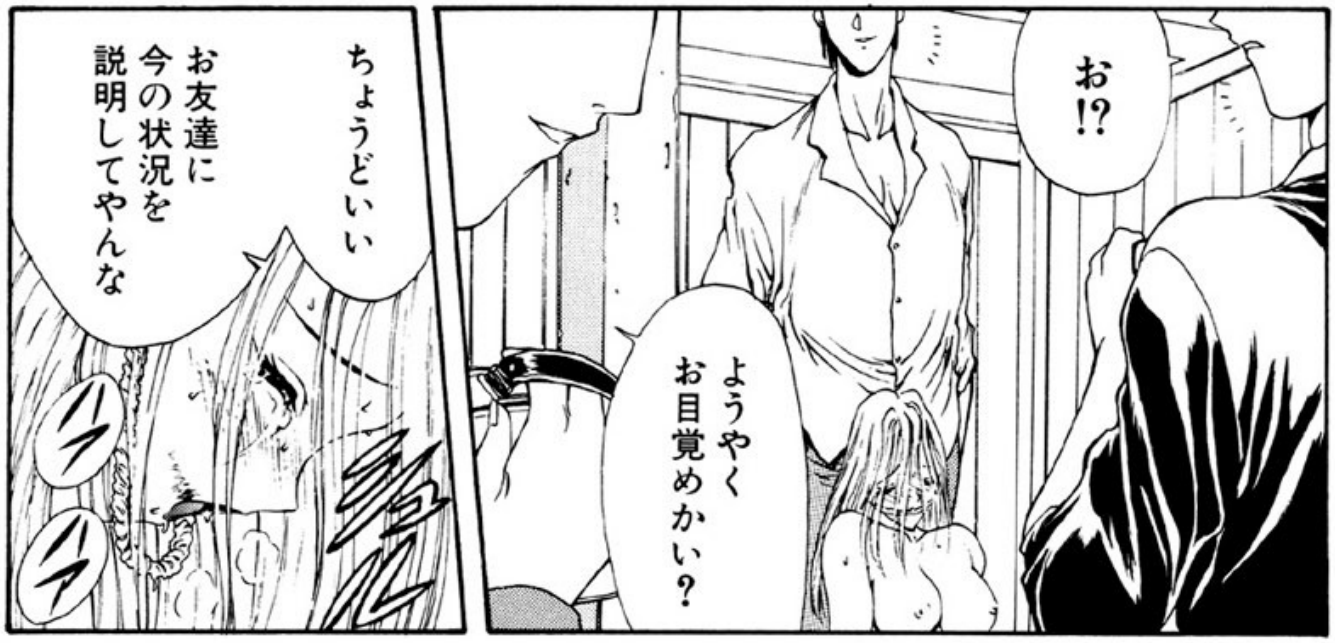

ど…どうなってるの!?
んっ…
んん…
なんか変だよ
絶対……
なんだよ
今日は二人もか
へへ…ついてるな
今夜は
たっぷり
楽しめそうだぜ
え!?……


それより
ここじゃまずい
さっき 近くで
妙な男が二人
うろついてた
例の場所へ
つれてくぞ
何…
言ってるの?
この人達……

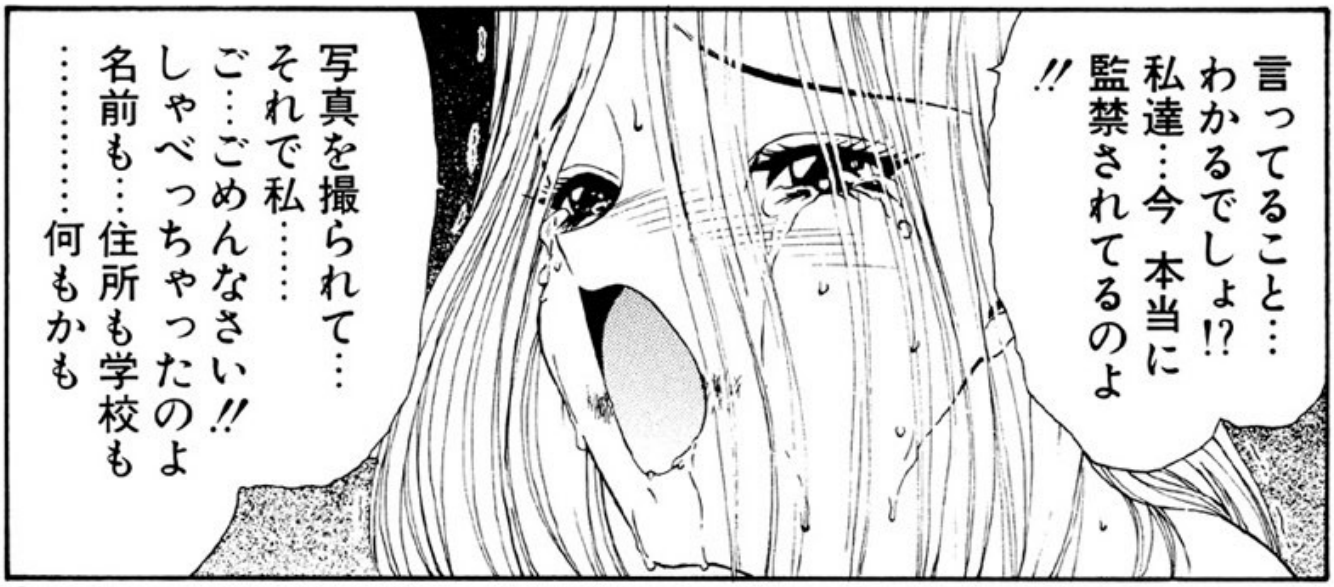

これは……
遊びのはずじゃ……


ん……
え？……
あっ……
な…何よこれ!?
ど…どこ？
ここ……
私……
いったい……
んんんっ
んっ!!


ん……んんっ!!
んっ んっ——っ!!
んん……
ん……
んん……ん
へへへ…
ほれ
んん……
んんん〜〜〜〜
奥の奥まで
しっかり写してやんな
カシャ
カシャ
カシャ
あ……
綾部さん!?
これ…いったい
どういうこと
なんですか!?


お!?
ようやく
お目覚めかい?
ちょうどいい
お友達に
今の状況を
説明してやんな
ハァハァ


ほ…堀井さん
よく聞いて……
こいつら
うちの使用人じゃあ
ないわ
これは…
遊びなんかじゃ
ないのよ!!
……!?


言ってること…
わかるでしょ!?
私達…今 本当に
監禁されてるのよ
!!
写真を撮られて…
それで私……
ご…ごめんなさい!!
しゃべっちゃったのよ
名前も…住所も学校も
……何もかも


そ……
そんな……
じゃあ
この人達……
本物の
!!?


へへへ…
聞かせてもらったぜ
おまえらの遊びのこともな
あっ!!


協力して
やろうじゃねえか
俺達が
たっぷりとな
い…
いやあ――っ!!


あああああっ


あ…あうっ
はっ……
はあっ……
そ…
それじゃあ
私達……
あっ…あ
ふあっ……


これからいったい
どうなっちゃうの!?
あっ
あはっ
はああっ


い…
いやあ……
やめて…
お願い…やめてえ……
な…名前や住所も
知られちゃって……
そのうえ
写真やビデオにまで
……


まったく
かわいそうになあ
遊びのつもりが
こんなことに
なっちまってよ


もっとも
これからは
そんなことする
必要もねえぜ


へへ…
わかってるよな
自分達の
今の立場は


そ…そうよ
もう私達は
……


これからは俺達がヤリたくなったら……
すぐくるんだぜどんな時でもな
もう普通の生活なんてできると思うなよ
今日からおまえらは俺達に抱かれるためだけに生きるんだ
つまりな……
おまえらの身体(からだ)はもう自分のモノじゃあないってことなんだよ


!!?
ああ……
あっ――――
あ……
ほ…
堀井さん……
本当に…
ごめんなさい
こんなことになって
しまって……
私…本当は
怖かったのよ…
あなたが
昨夜のこと
みんなに
言いふらすんじゃ
ないかって……
だ…だから…
あなたにも同じ弱みを
持たせようと思って
……
……
い…
いいの……


いいのよ
綾部さん…
だって…
初めてだもの
こんな気持ち
今 はっきり
わかったわ
……
あなたの
言ったとおり…
私はもともと
こういう女
だったのよ……


そう……
堀井……
……さん
綾部さんも
思ってるん
でしょ？…
心の中では
もう……
今の私が……


今の気持ちが
本当の……
そ……
そうなの……
私……
もう
どうなっても
いいって……
本当の…
自分を――


堕ちましょ
……
いっしょに
30x
あ……あ
美咲い……
しの…ぶ……

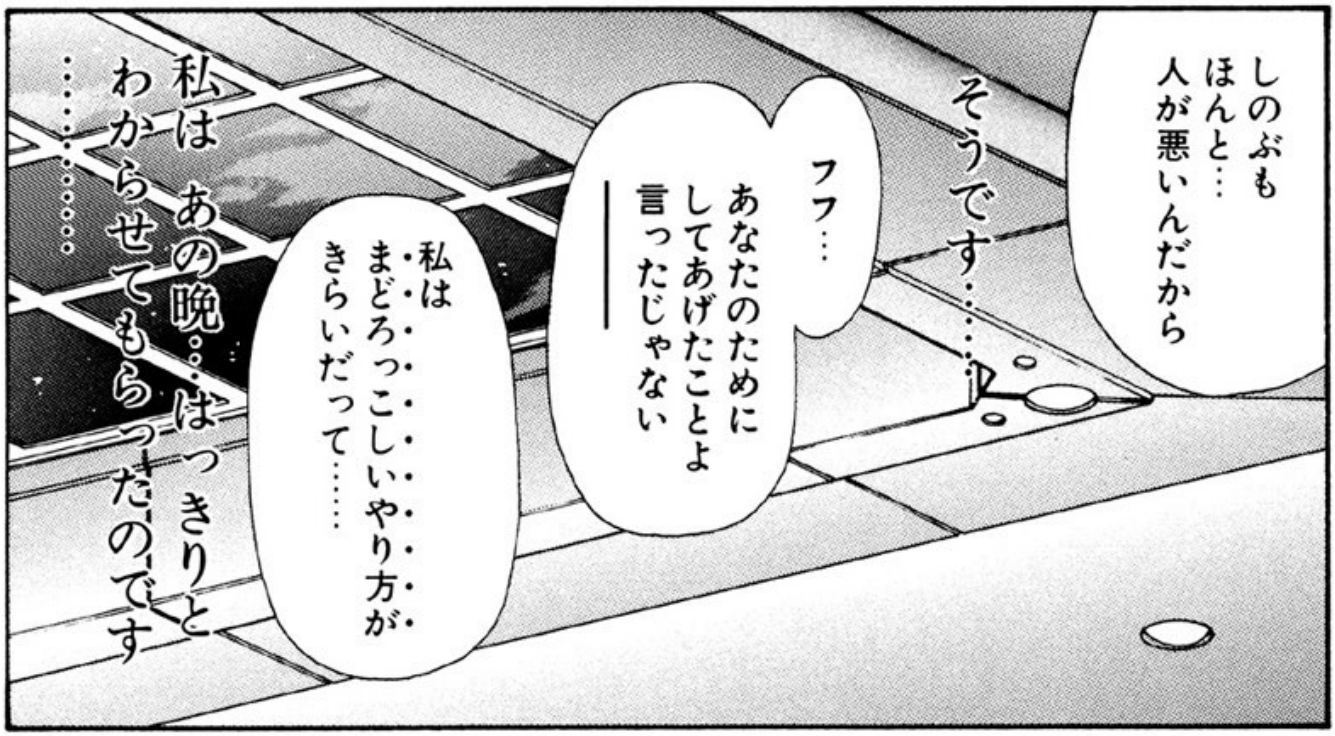

ん……
ん……ふ
んん……
あああああ
あん


はっ
はっ
はっ
あっ
あっ


出してっ!!
あっ…あ
入ってくるう…
ドクドクって…
感じるう
汚すのよ
私を
汚しつくすのよ!!
んあっ……
はあああ——っ!!
あ……
あ……あ
ふあ…あ……
あふ……う




フフフ……
懐かしいな
そういえば
こんなことも
あったよね
ほんとにね……
美咲ってば
震えちゃってて…
とっても
かわいかったわ
だって……
あの時 私…
本気でどうなるかと
思ってたのよ


しのぶも
ほんと…
人が悪いんだから
そうです……
フフ…
あなたのために
してあげたことよ
言ったじゃない
私は
まどろっこしいやり方が
きらいだって……
私はあの晩…はっきりと
わからせてもらったのです
……


もしも
すべての女性が
こんな気持ち…
こんな願望を持っていたとしても……
そんなことより…
今夜は どんな
シチュエーションが
お望みかしら…？
ほとんどの女(ひと)は
それを表に出すことを
恥と考えるでしょう…
しかし――
そうね…
ゆっくり考えましょ
夜はまだ……
始まったばかり
なんだから
私達のように…それでしか
自分の「女」を表現できない者もいる――ということを……


ゴゴゴゴゴゴ


よいか
ミーン
今宵はいよいよ
おまえが
死神として
初めての仕事を
する日……


これを見事
果たせれば
おまえもようやく
一人前の死神として
認められること
だろう
父の教えを
忘れぬようくれぐれも
気をつけて……


行ってこい!!
我が娘よ!!
はい
パパ…いえ先生
それじゃ――

いってきまーす!!
みつどないと
ボケ〜しよん


47
ん？
な…なんだ
なんだ!?
こんばんは――っ
……
よいしょっ……と
ハァ…。


はじめまして
私 死神の
ミーン＝フリカッセ
と申します
……


ぶしつけで
お尋ねします
けど……
貴方
佐藤健一さん？
あ…ああ
そう…だけど
は…はい
ズイ
間違い
ありませんね？
ね？
ね？
そうですか
それじゃ……

貴方の魂――
このミーンがもらいうけます――っ!!
ちょ…ちょっと…!!!
49
う…うわっ!!!
あああああ

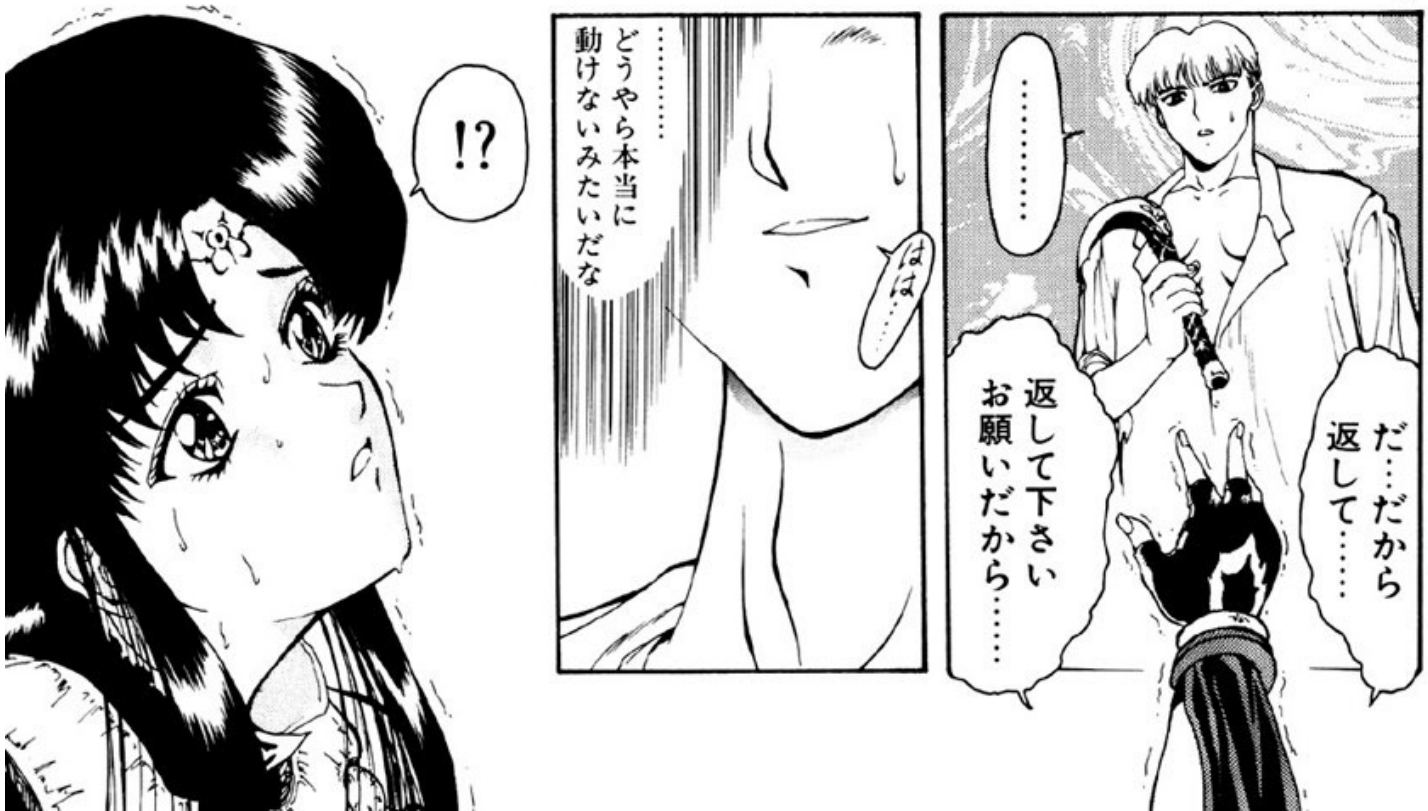

やったあ
あとは
このまま魂を
抜き取れば……
おいでませ――っ!!!
魂――
ガッ
ガッ
ガッ
え!?
ドサ…
きゃん!!


な…なんだよ
このカマ
刺さってる感じは
たしかにあるのに
痛くもかゆくもない
……
第一
なんなんだ
この娘(こ)は
いた〜い
壁から出てきたり
死神だとか
魂をもらうとか……
なんで――っ!?
どうして魂が
抜け出てくれないのよ
――っ!?
お…おい
おまえ
説明しろ…!!
なんなんだ
おまえは…
俺の魂を持っていくって
どういうことなんだ…!?
!!!


だ…だめエ――っ!!!
返してっ!!!
それ…返してエ!!!
え!?
グ…
!?
!!?
あ……
あ……
ああ……
ヘナヘナヘナ


や…
やめて…
そんなに強く
握らないで
苦しい……
苦しいよぉ……


な…
なんだ？
どうしたんだ
いったい……
そ…そのカマは
私達 死神にとって
分身のような物で
……
手放してる時
受ける負荷は
直接 身体に伝わって
きちゃうんです……


だ…だから
返して……
返して下さい
お願いだから……
……
はは…
どうやら本当に
動けないみたいだな
!?


ゴ…
ザ
ドン
うあっっっ!!!
か…は
これでもう
まったく
動けないだろ
は……
ふあ……
は……
あ……
な……
なんでこんなことするの…? やめてホントに苦しいの……
死神だかなんだか知らないがどうして俺が死ななきゃならないんだ
魂を持っていかないっていうならやめてやるよ
そ…そんなことできるわけ……
!?
なっ……
何する気!!?


!!?
やっ…やっ…
やだっ!!
やだあ——っ!!!
ど…
どうなってるのよ
いったい…
この人 なんで
こんなにピンピン
してるの?
これじゃあ
魂が肉体から
離れるわけないわ
なんだ
人間と全然
変わらない
じゃないか
しかも
まったくの
手つかずだ
やめてえ!!!
た…助けて
パパ
パパァ——ッ!!
55


ハア。
み…
見ないで
ハア。。
お願い
見ないでぇ
……
ハア。。。
はは
こりゃいいや
ホントに 人間と
違うところなんて
ないじゃないか
や…やめて
フリ
フリ
いやっ!!
ヒク
ヒク
いやあっ!!
ああああっ
ソ…
ピ…
チュ…
ピク
ピク…
……
クス…
ミーン…だっけ?
すごいね 君
ちょっといじっただけで
どんどん溢れ出てくる…
これって
君達 死神の特徴なの?
チュ…
チュ…
チュ…


それとも……
トロ。。
君だけに限ってのことなのかな？
んんーっ!!
57
こんなこと…自分でもしたことなかったのに……
それじゃそろそろ……
いただくよ
ああーっ!!!
ふあああ痛いっ!!
痛いよおパパァーッ!!!


あぐっ
ひぃぃぃぃぃ
いっ
はあっ
ご…こんなのってないよお!! 魂奪いにきて逆に……
パ…パァ
はっ
はっ
はっ
はっ
はっ
はあっ
ふああ……
逆にこんな形で貞操奪われちゃうなんて……


だ…だめ!!
だっ……
だめえ――っ!!!
ぐちゃ
あっ…
パッ……
!!
パパァ――ッ!!


……よし


これで 今までの
出来事は この男の
頭から消えた……
――ではミーン
我らも帰るぞ
え!?

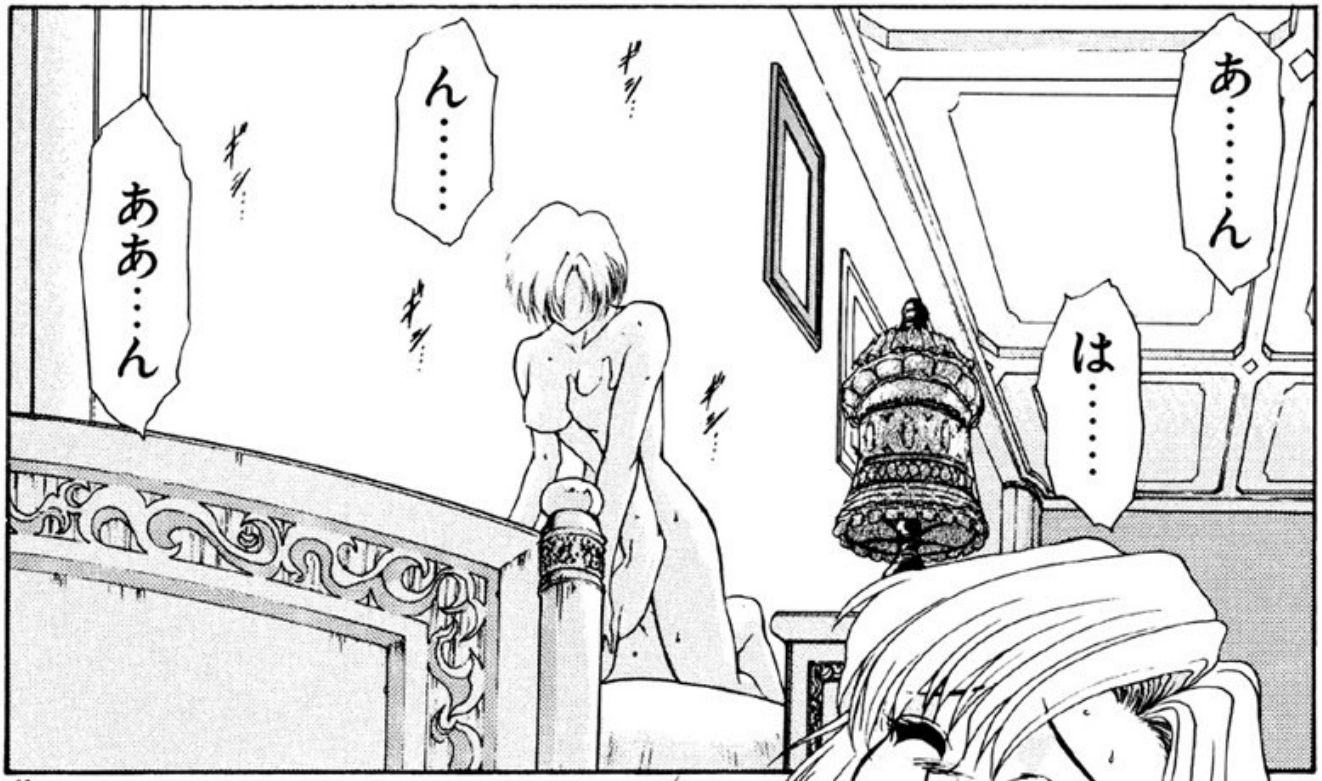

か…帰るぞってパパ……
魂はとっていかないの?


……ミーン
……そのことなんだが――

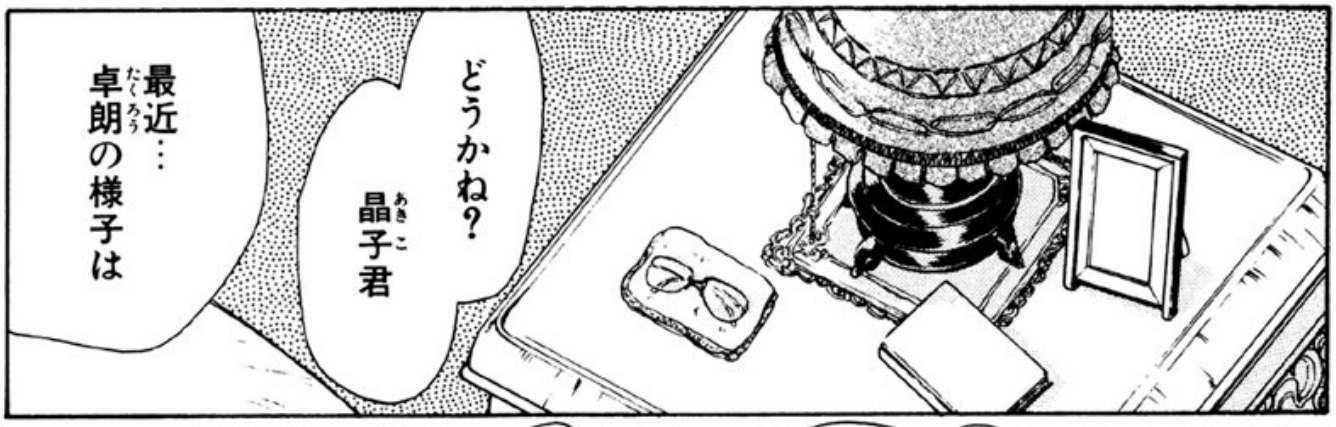

じつは ちょっとした 手違いがあってな……
今日死ぬのは その男と 同姓同名の 別人だったのだ
……は?
ゴル…

Dear my teacher




あ……ん
は……
ん……
ああ…ん


あ……
あは……
あっ……
はあ……ん
ふっ……
……


最近…
卓朗の様子は
どうかね？
晶子君


おぼっちゃんですか？
ええ
成績の方は申し分ありません
もう一学年上の問題集も解いてしまいますし
素直で手間もかからない……
理想的な生徒ですよ

家庭教師として
この家に
住み込みを始めてから
約一ヵ月後――

いつからか…私は
昼と夜 同じ家で
二つのバイトを
するようになっていた

それが……

先生

はい
できました

……

卓朗君

何度言ったら
わかるのかしら
……!?

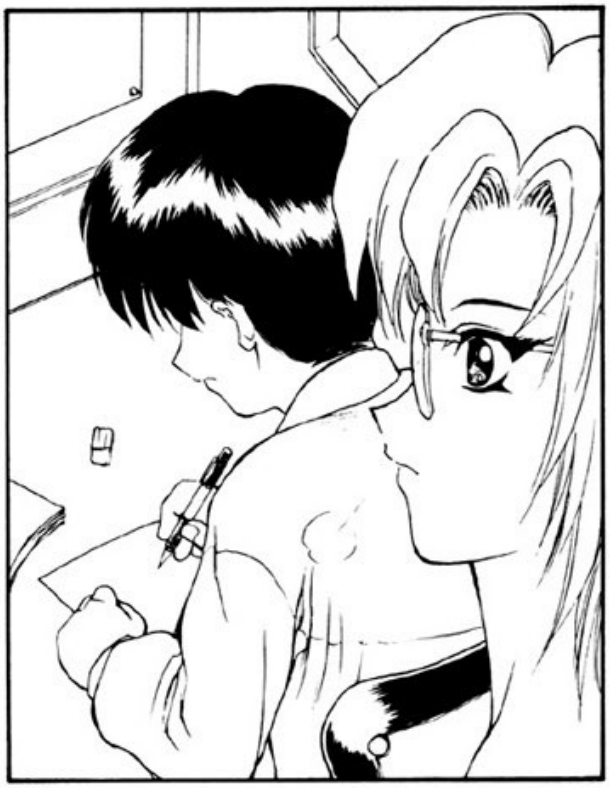
まさか
あのようなことに
なろうとは
この時
夢にも思っては
いなかったのだが
……


あ
間違ってました？
見て
ごらんなさい
ここ……


よく 見直し
してない証拠よ
考え方は
あってるのに
単純な計算ミスで
結局
間違えちゃってる


見直しは 最低
二回しなさいって
言ってるでしょ!!


さ……
あ…はい
もう一回
やり直し!!



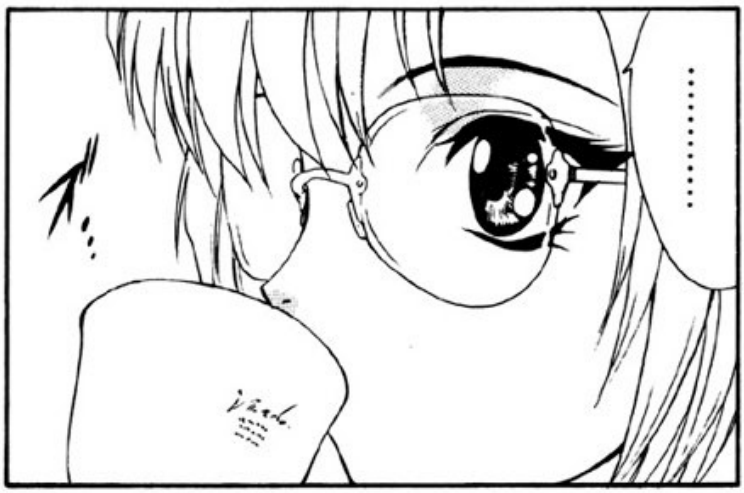

……
いっつも
思うけど……
本当に
冷めた子ね
この歳にしては

可愛気がないって
言った方がいいのか……
ま…
素直に言うこと
きいてくれるのは
助かるんだけど
卓朗君
ひとやすみ
しましょう
あ…
はい


ねえ…
先生
何？
今日から
お父さん…
しばらく
いないん
ですよね？

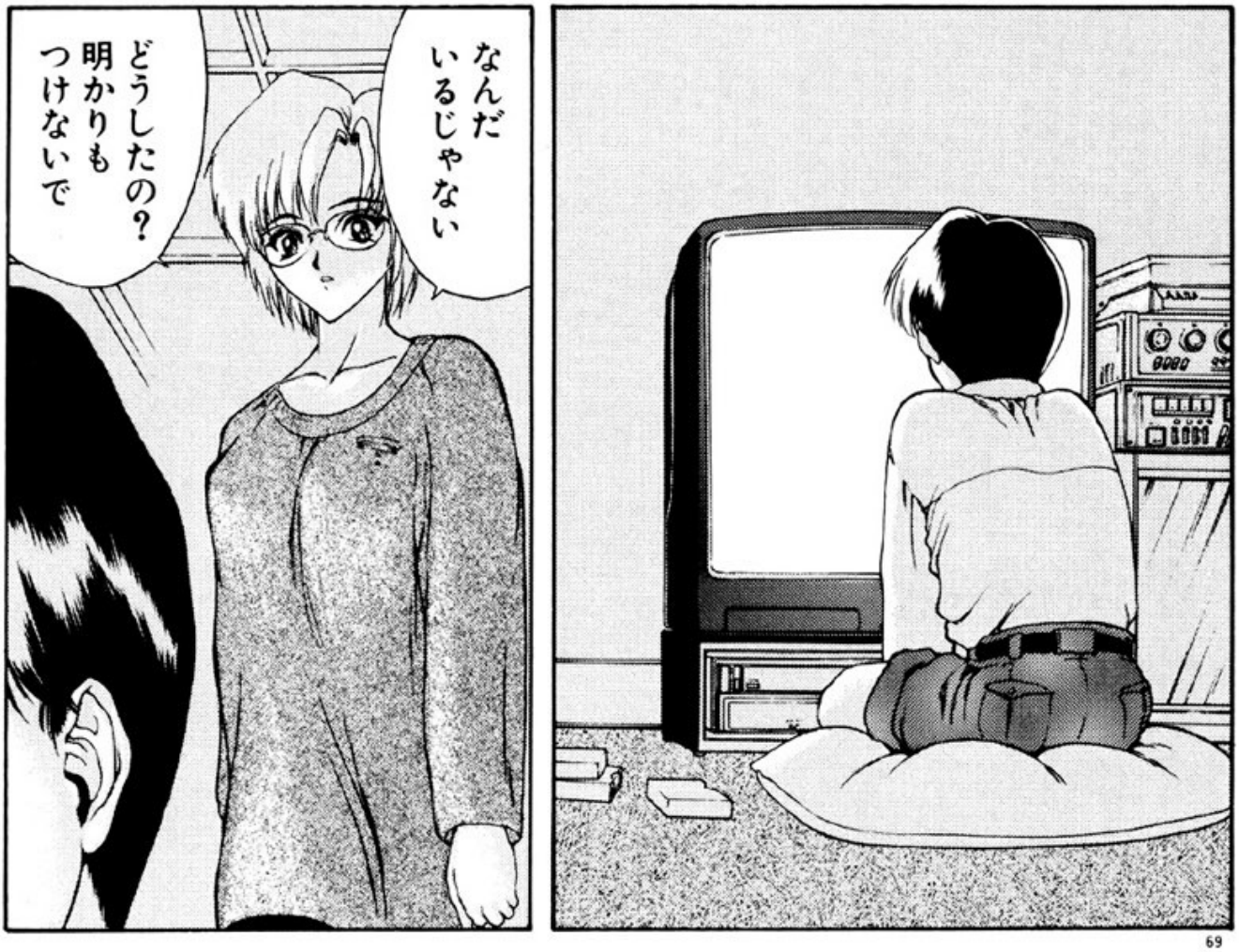

ええ
そうね
お仕事だから
それが
どうかしたの？


じつは……
先生に
ちょっと相談
したいことが
あるんですけど
今日の夜
ぼくの部屋に
きてくれませんか？

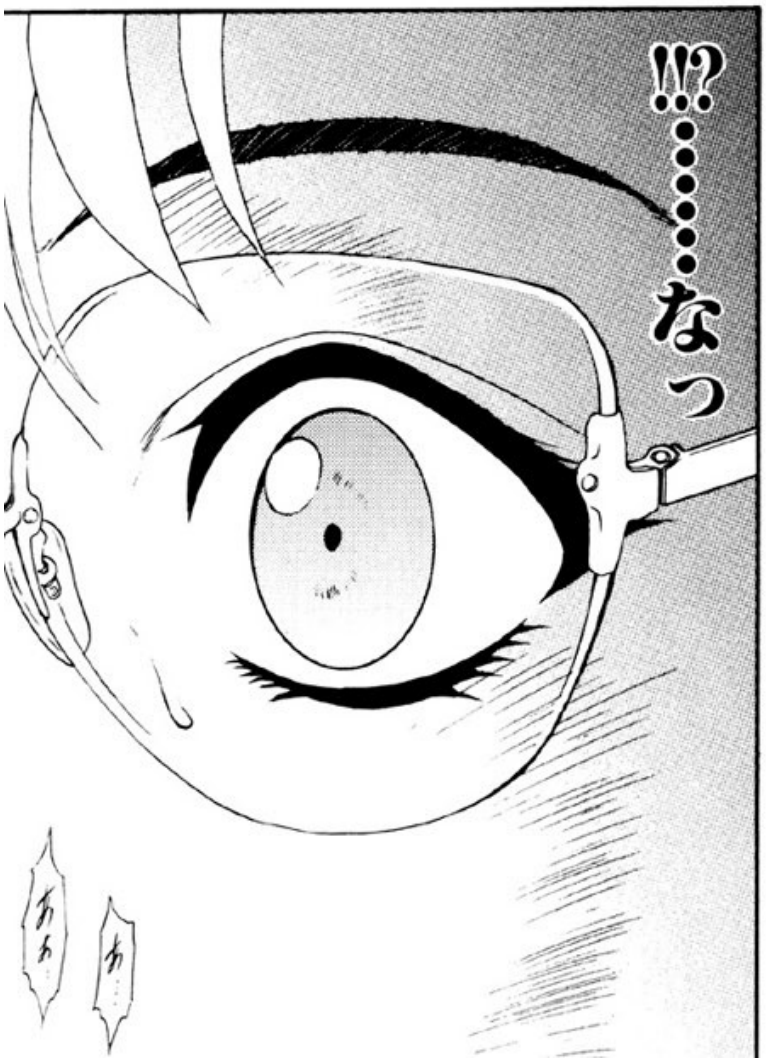

……


いいわよ
私なんかで
よければ
ふ――ん…
この子も一応
悩んだりするんだ


……
コツ
コツ
おかしいわね
この時間にって
言ってたのに……
ガチャ
!?
卓朗君?


なんだ
いるじゃない
どうしたの？
明かりも
つけないで


何 見てるの？
そんなに
近くで見ると
目が悪く……

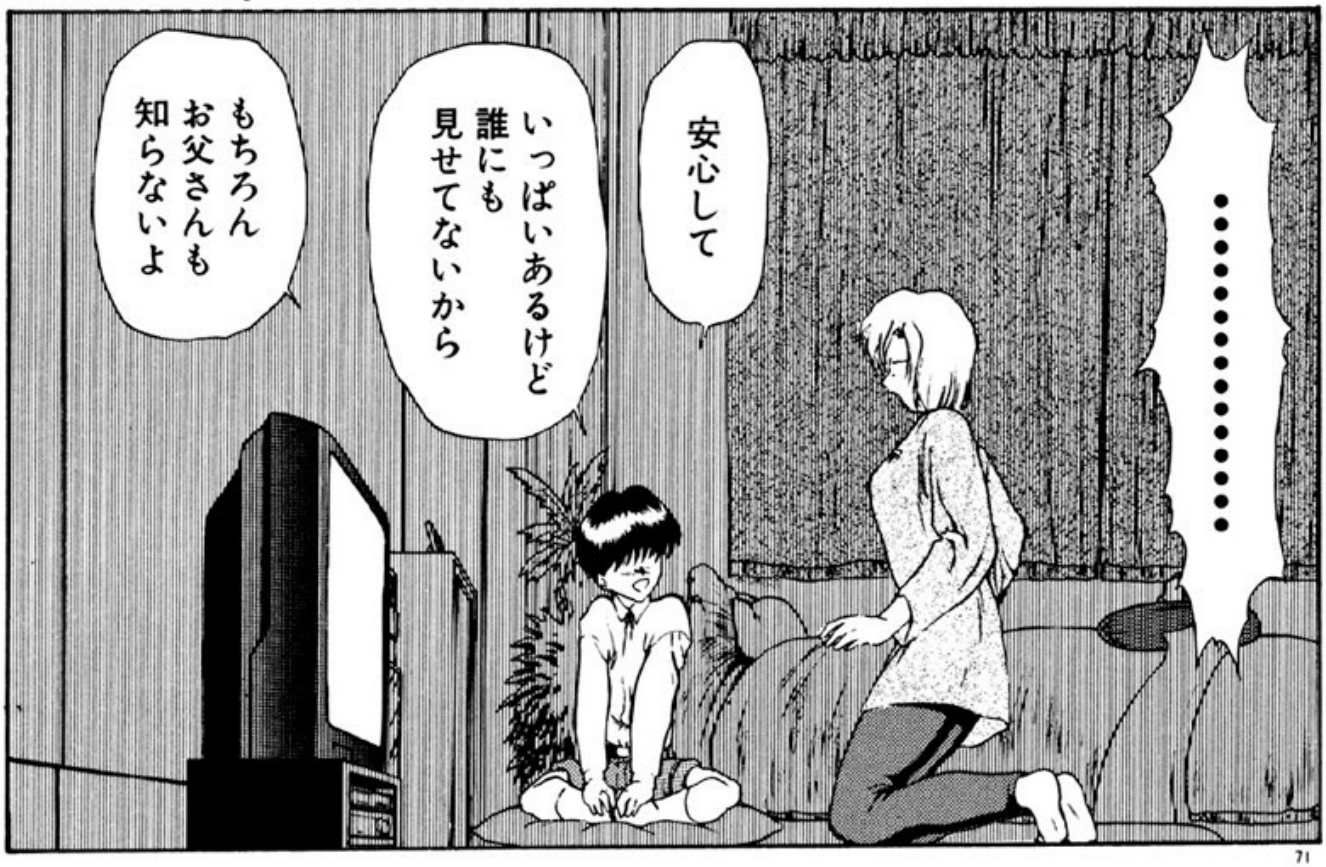

!?……なっ
ガタ
ガタ


何よこれ!!?
あっ……
は……
わ…私!!?
あはあ……
あ……
ああ……


!!?
ま…
まさかこれって……


い…いい……
もっと…
深く……


どう?
先生
よく
撮れてるでしょ
ぼくがね…
仕掛けて
撮ったんだよ


……
安心して
いっぱいあるけど
誰にも
見せてないから
もちろん
お父さんも
知らないよ


……
ぼく…
先生のこと
大好きだから

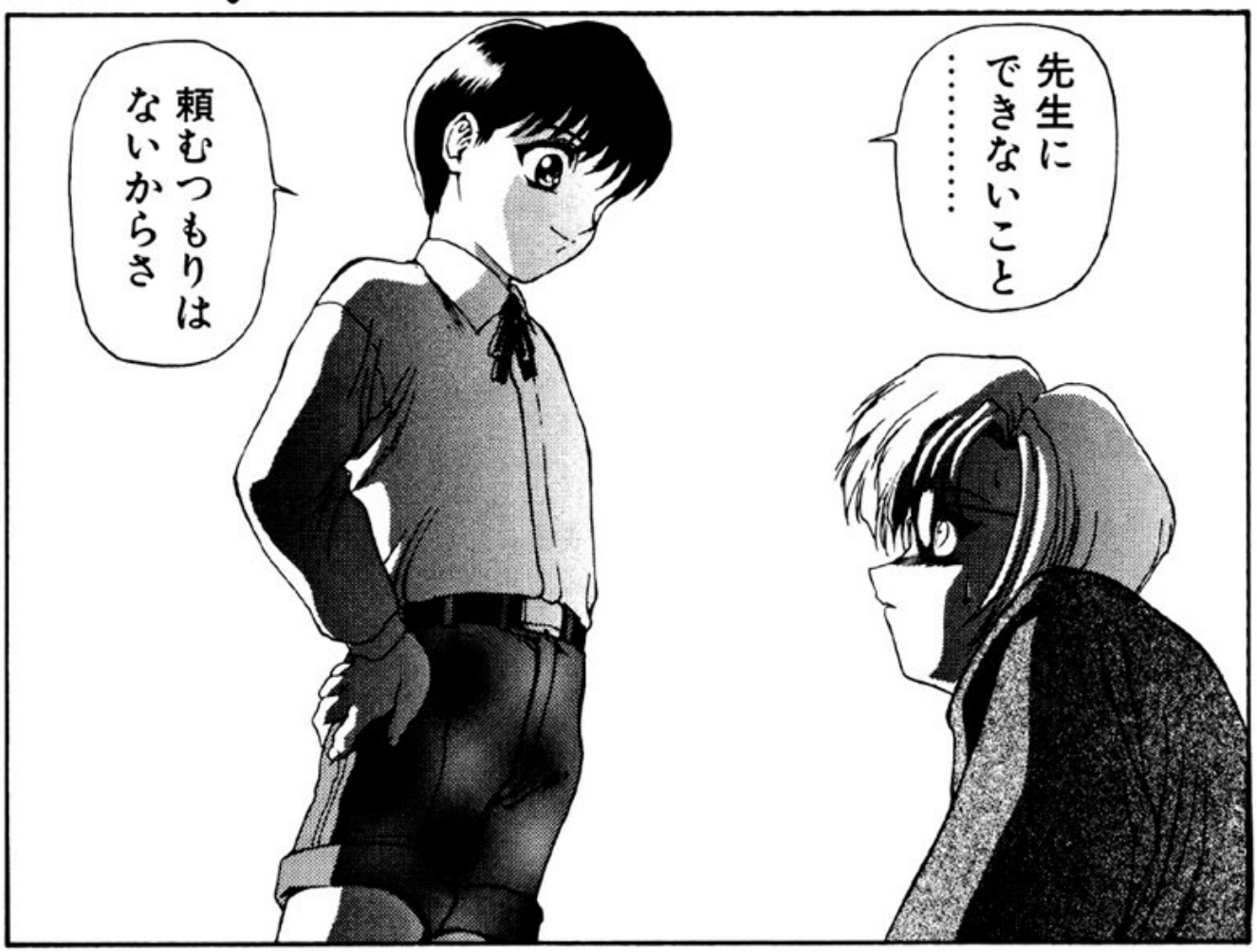

だってさ
こんなかわいい先生
……
もったいなくて
人に見せられないよ
クイ
クイ




わ…悪ふざけにも
限度ってものが
あるわよ
卓朗君!!
さあ…
そのテープ
全部 先生に
渡しなさい!!
グイ


いいのかなあ先生……
ぼくにそんな口きいて
これ……お母さんに見せたらさ
どうなるか……わかるよね!?


この子……
た…卓朗君……
あなた……
私を…脅迫しているの!?
そんなに怖がらなくていいよ……
別に――
スッ


先生にできないこと……
頼むつもりはないからさ


ゆ…夢よ……
悪夢だわ…こんなの!!


だって……
この子は まだ子供なのよ!!


私の…教え子なのよ!!!


やっ……
あっ……
ああっ……
わ…私 今……
本当に
犯されてる!?
教え子に…
強姦されちゃってる!!
ああ…あ
夢にまで
見たんだよ
先生を
こうやって…
犯すのをね!!


どう？
今の気分は
あっ……
さっき
教えたとおり
答えてよ
はっ……
あっ……
も…もう
ゆるして
卓朗君……
あんな
こと…
言えな
早く!!


!!?
……うっ
うれしいです
先生…じつは
ものすごく
淫乱な女で……
卓朗君に……
こんなふうに
犯されたいって
ずっと
思ってたから!!


よく
言えたね…
先生
私
バフッ


ごほうびに……
たっぷり
流しこんであげるよ
生で出されたことなんて
一度もないんでしょ？

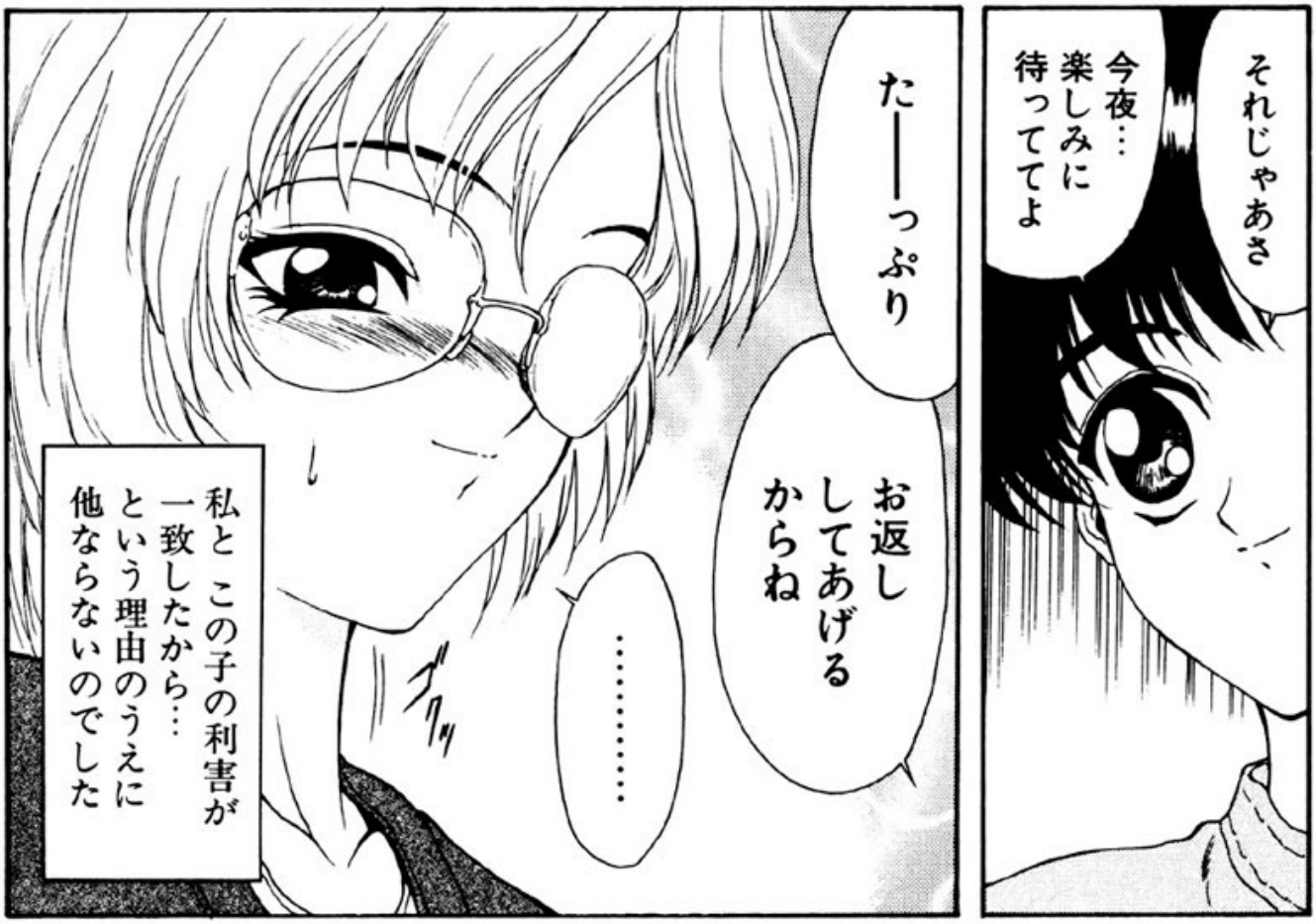

!?
や…
やめて!!
お願い
やめてっ!!
外に…
外につ…!!!


あうっ……
あっ……
ああっ……
私は今……
卓朗君(こども)の——

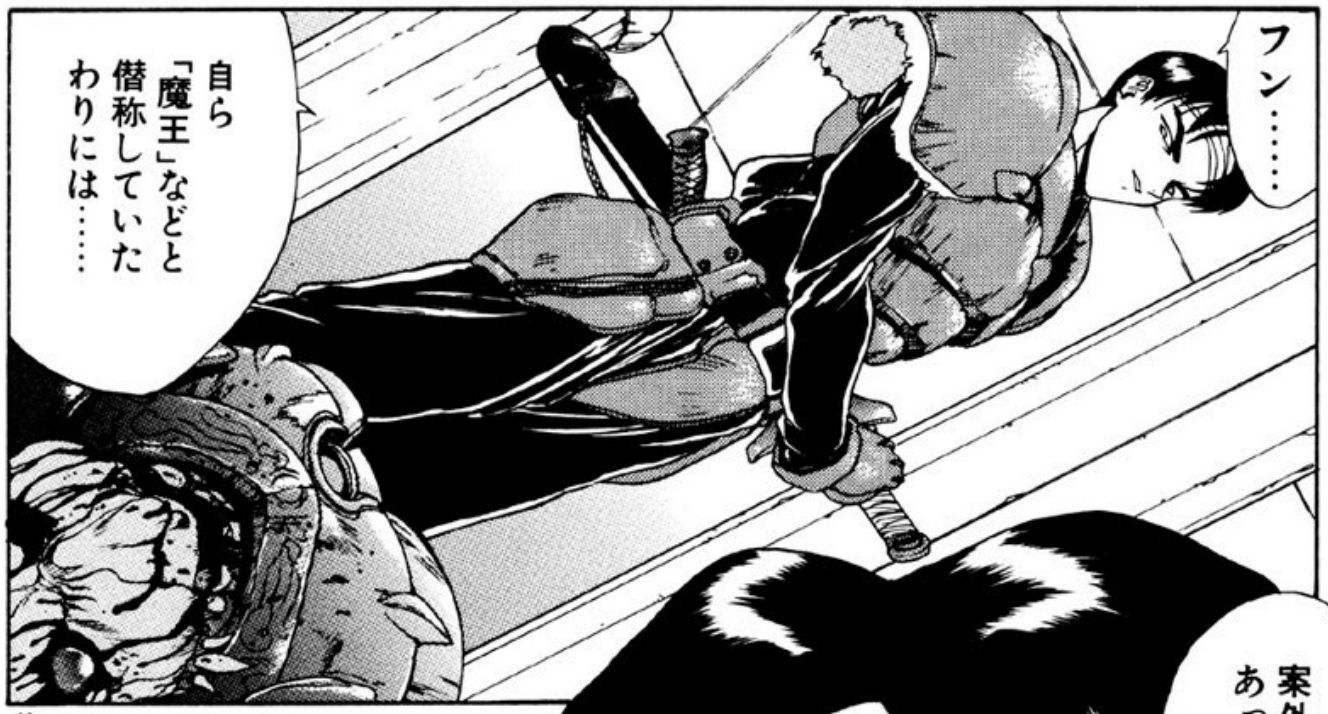

あっ……
性奴(オモチャ)にされちゃってるんだ!!!
ドピュ!!
あっ…いいっ…!!


それから
さらに一ヵ月が
過ぎたが……
卓朗君!!
ピンポーン
また同じような
間違いしてるわよ
!!
私は いまだに
この家で
家庭教師を
続けている


それを
可能にしたのは
ひとえに……
先生……
今日は
いつにも増して
きびしいね
あ……そっか
今日から
またお父さん
いなくなるものね


それじゃあさ
今夜…
楽しみに
待っててよ
た――っぷり
お返し
してあげる
からね
……
私と この子の利害が
一致したから…
という理由のうえに
他ならないのでした


ガキ
ズズズ
ハハハ…


フン……
自ら「魔王」などと僭称していたわりには……

SATAN DOLL


案外あっけないものだ
ま…この俺が強すぎたということもあるだろうがな

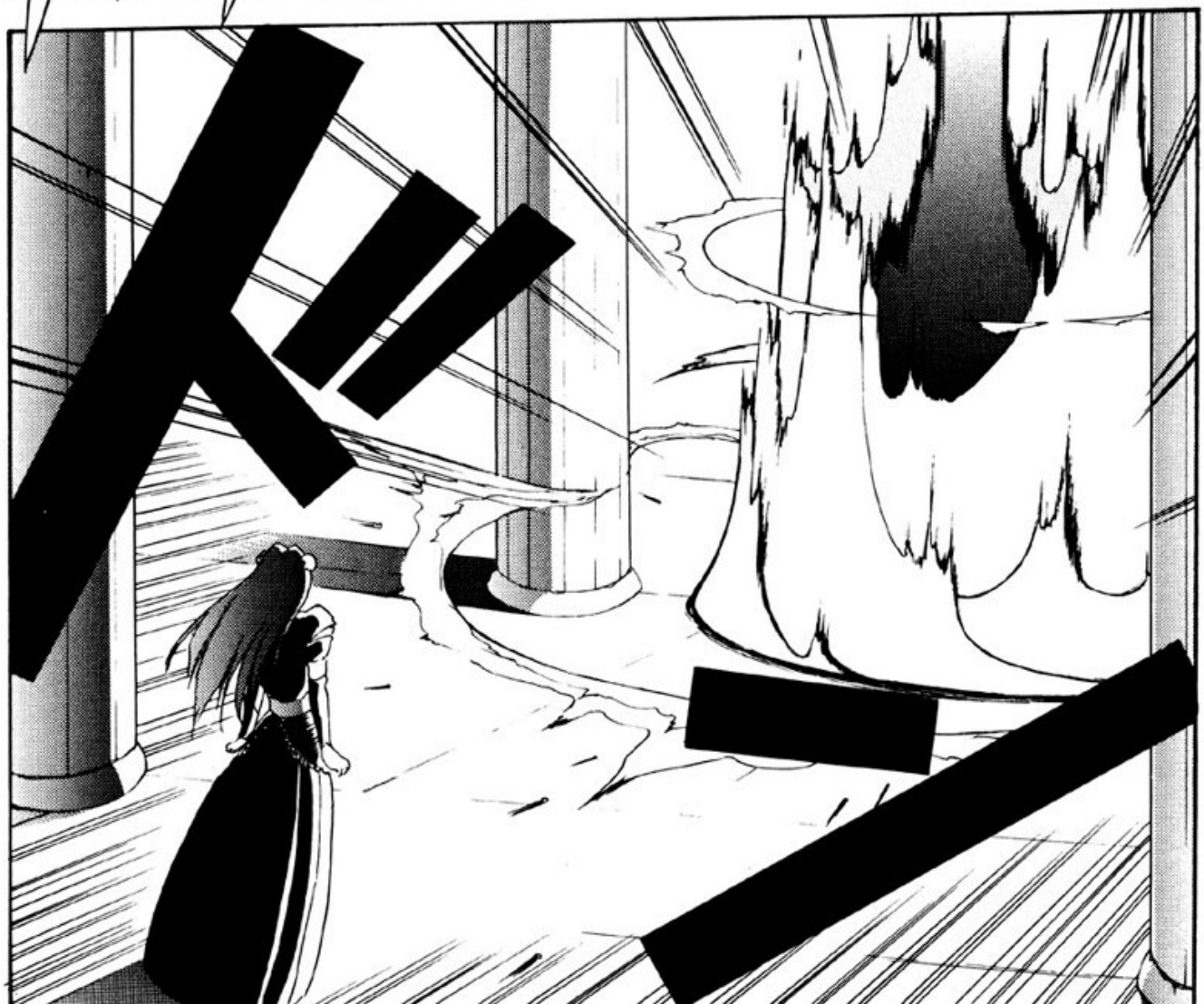

まあいい……
なんにせよ これで俺は この国を救った 英雄……
地位……
金……
そして 女も 好きなだけ……
ククク……
フッ……


誰だっ!?
!?


よ…よくも
女!?
よくも私のお父様を…!!
何…?
お父様だあ……?


よくもっ…!!
バチッ
バチッ
バチッ


!?



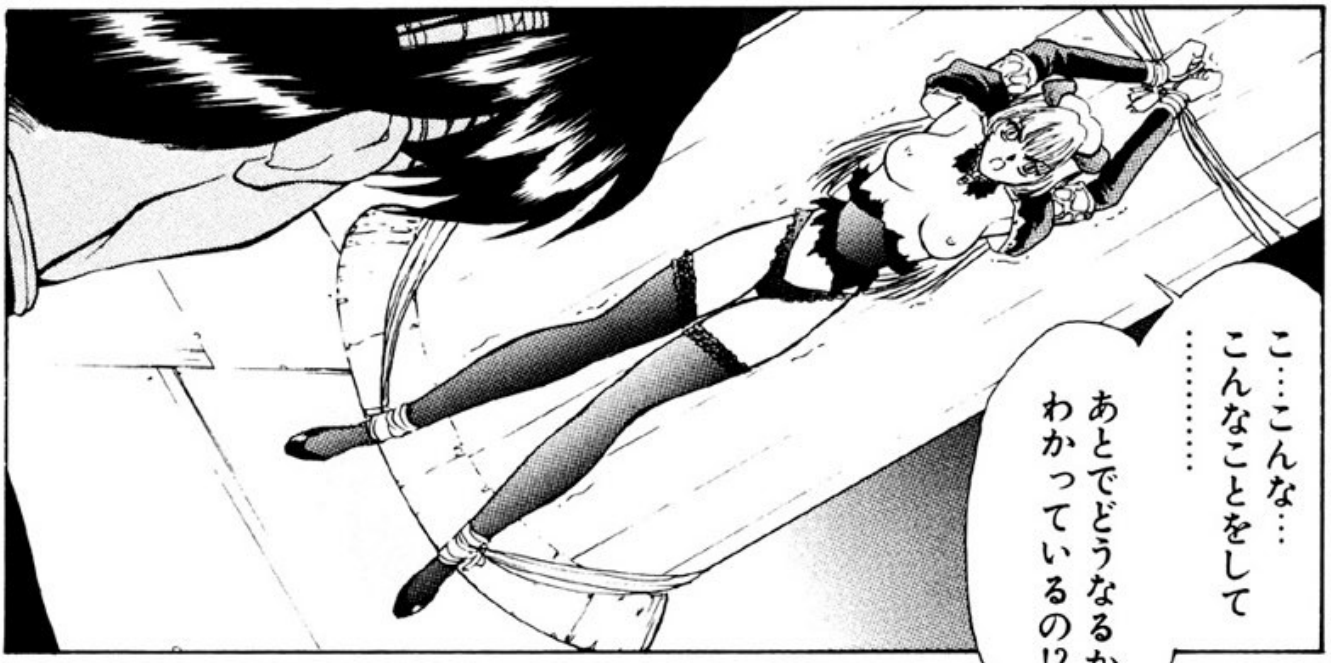



ゴッ
!?


ドサ…


……あ


お…おろせ
や…やめ
ビッ
ビッ
やめてえ——
85
い…いやあ——っ!!
み…
見ないでっ!!
見ないでえ!!


こ…こんな…
こんなことをして
……
あとでどうなるか
わかっているの!?


お…覚えてなさい
けっして……
タダでは済まさないから!!


フン…
威勢のいいことだ
ますます
気にいったぜ……
――だが


もう少し
己の立場も
わきまえることだ
魔力を封じられた
今のおまえに
何ができる…?


泣き叫んで命乞いするのが関の山だと思うがな
せいぜい……
いやっ…
いやあっ!!

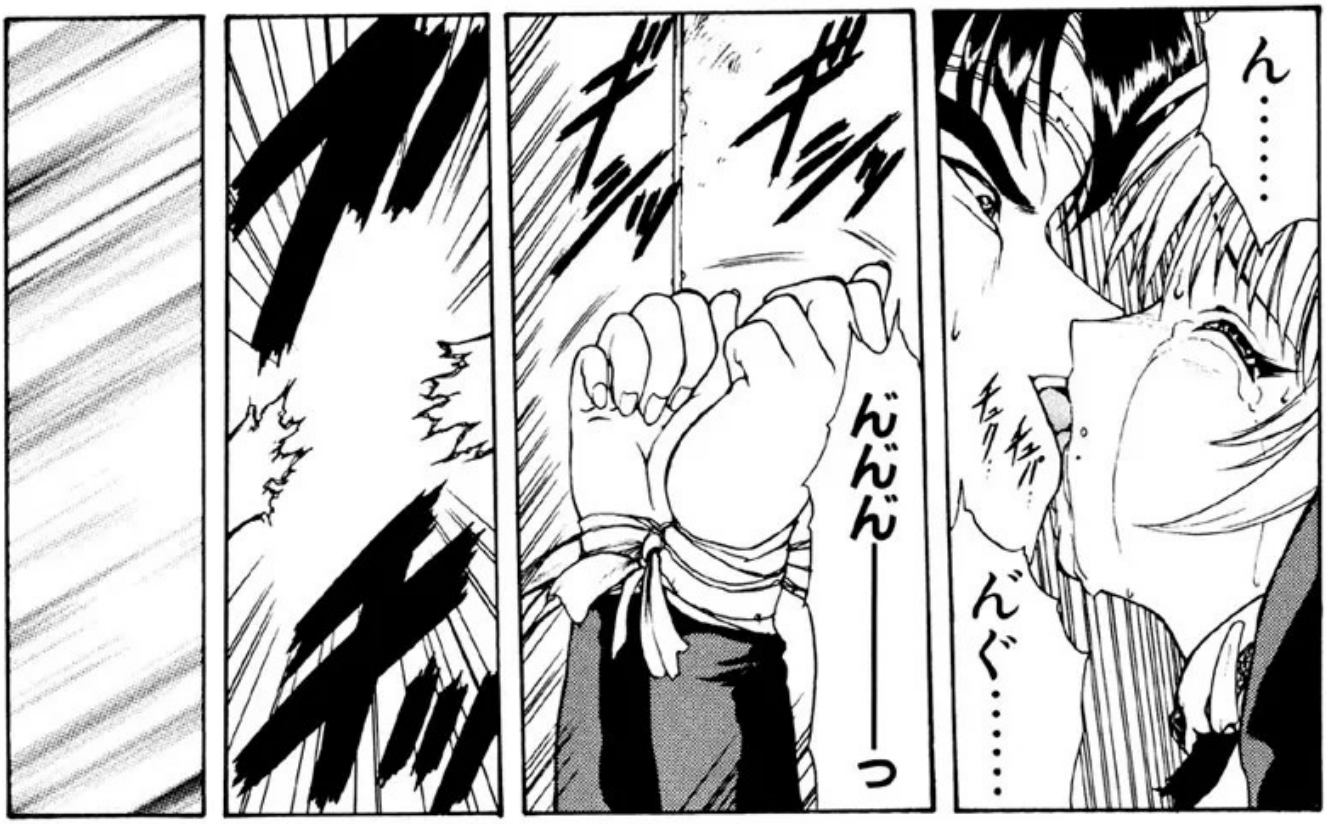

ああっ……
や…やめて!!
だめえっ…!!
ああっ……
あ――っ!!


やめっ…
やめてえ——っ!!
ビク…
ビク…
ビク…
ビク…
いやっ…!!
いやっ…!!
ああ…いやあ——っ!!!


どうした…？
さっきまでの勢いは
もう
逆らう気力も
果てたか
罵声ひとつ
出てこんよう
ではな
……
……
ククッ…それじゃ
罵声ではなく
……
別の声を
あげさせてやるか


ああ――っ!!
ふあああっ
あぁっ……
はっ……


はあっ……
はっ……
あっ……
はっ……
ああっ……
人間の女とは
比べモノに
ならんな……
こ…こりゃすげえ…
うわさには
聞いていたが……


ん……
んぐ……
んんん――っ


あう……


あ…ああん
はん……
はあん


へへへ…最初はすぐブッ殺してやろうかと思っていたが……
気が変わったぜ!!
安心しな 生かしといてやるよ この俺の 性奴(ペット)としてなあ
ああ…あ
こいつはその祝いだ!!
出すぜっ!!
たっぷりと飲みな!!!
!?

ズブ
ビクビク…
……い
嫌あああああ
あ…ああ……あ
ズル…





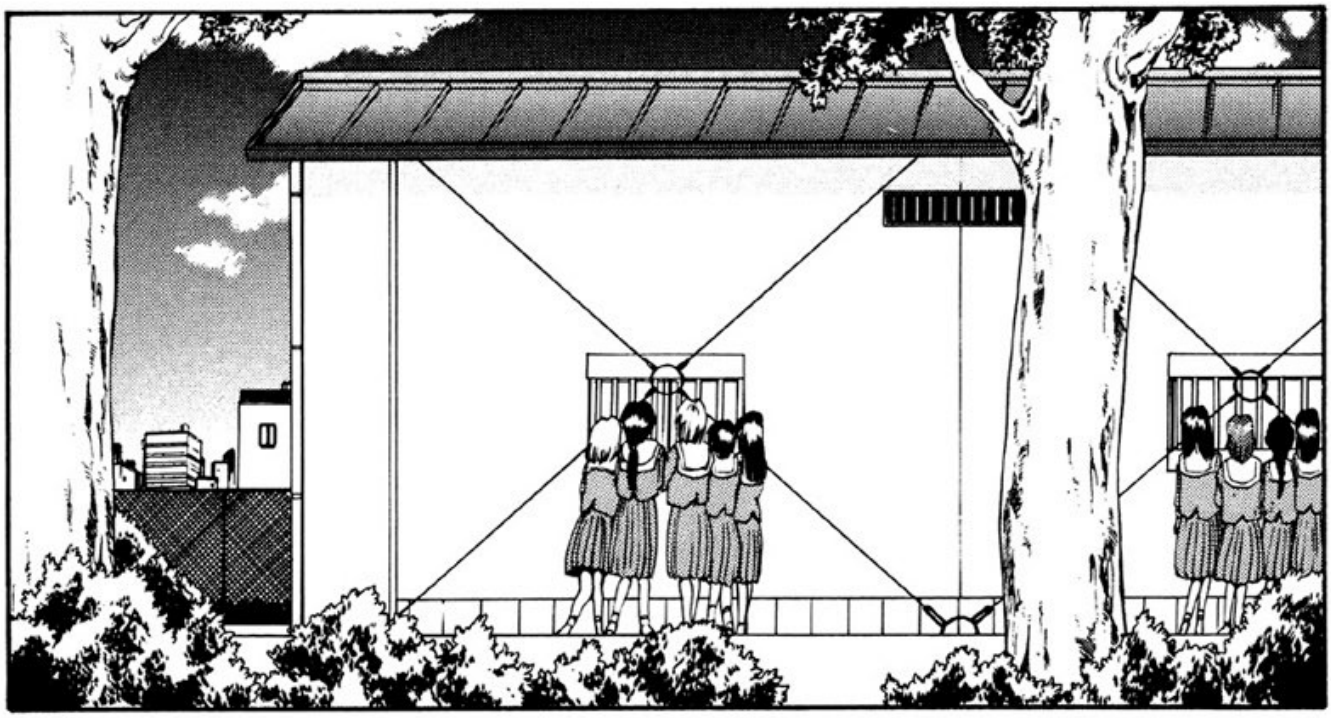




SATAN DOLL／おわり



瞳 そらさないで…




ぐっ……
すてき――っ
鳴沢さーん
綾先パアーイ

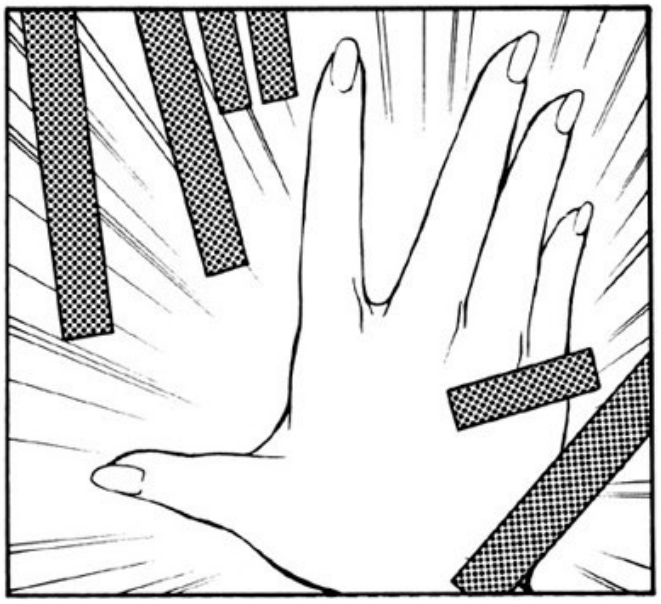
あの女と同じ場所に立ち――




同じ空気を吸って……


いつも
その背中を見つめていた――











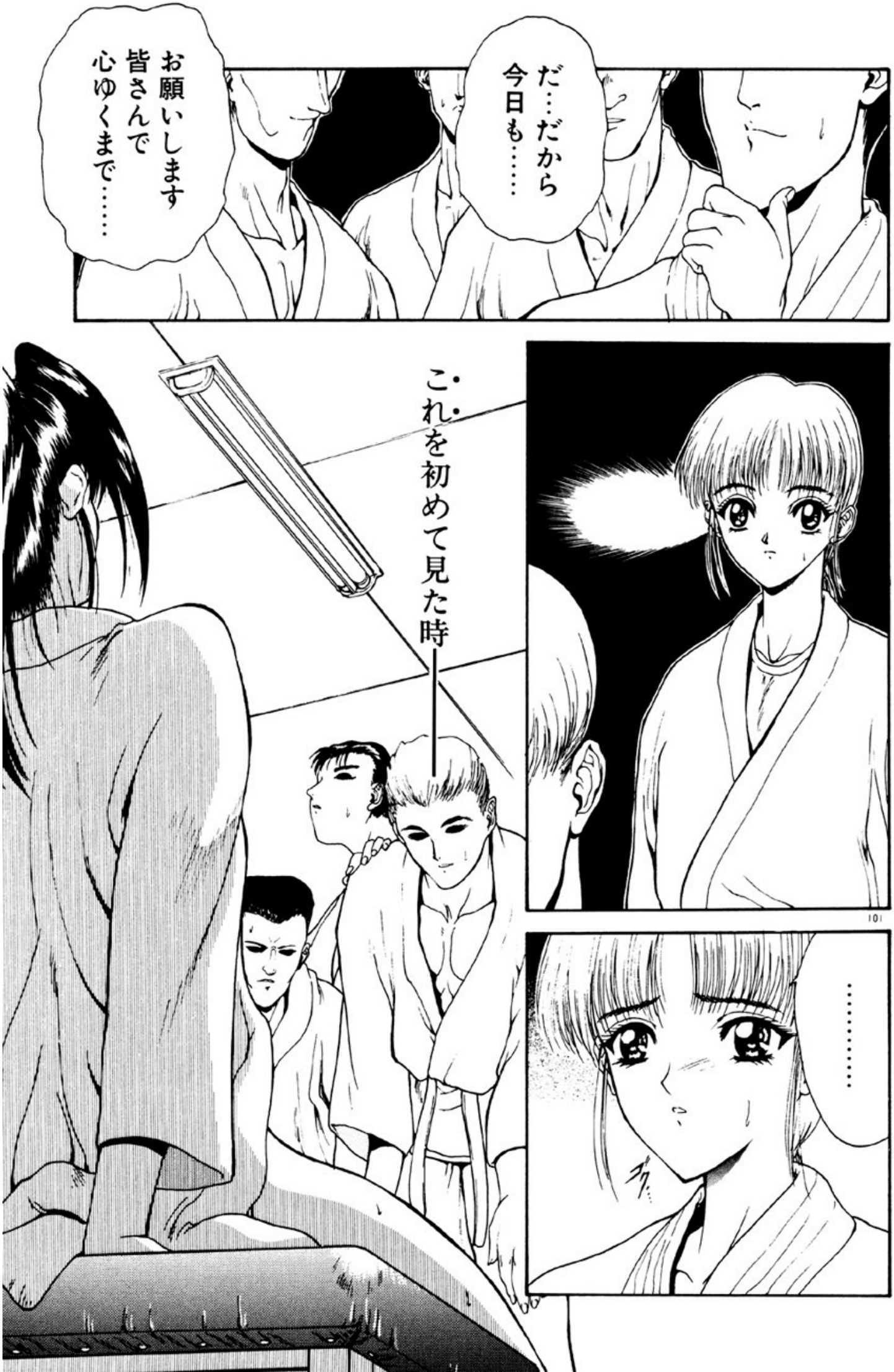



鳴沢




皆さんに
嬲(なぶ)られるのを
待ちわびていた
……
スケベで…淫乱で…
恥知らずな女です
……


み…
見て下さい
……
私は……
部活のあいだ中
ずっとこんなモノを
くわえこんで……


だ…だから
今日も……
お願いします
皆さんで
心ゆくまで……
こ・れ・を初めて見た時——
……

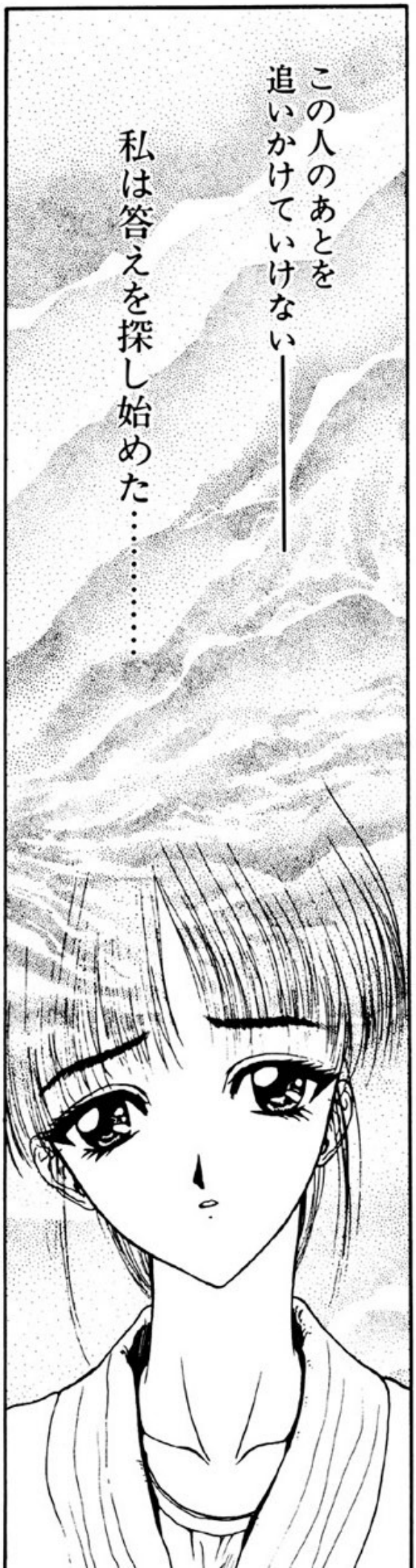
この人の背中が
見えなくなった――
――なぜ？

ショックだった――
わからない!!
――今の私には……



この人のあとを
追いかけていけない――

私は答えを探し始めた……




すごいなあ
こんな奥まで
入ってたんだ
ああああっ……


本当に
淫乱なんですね
鳴沢先輩って……
おっかけの女の子達……
卒倒しちゃいますよ
こんな姿 見たら
は…はい


ん……
ん……
んふ……
ん……
ふう……
ふ……
うんん……
ふう……
(ポ)
(ポ)
(ポ)
(ポ)
んっ…ふ
の…飲んで
下さいよ……
先輩
!?
ドロ


ホラホラ
まだ出ますよ
先輩
はあ…
ああん……
な…鳴沢
こっちも
……


だ…
出して……
膣内にも…
いっぱい
注ぎ込んでえ
……
あ……あ


理解できないことは
問題ではない――
見えてる物が
すべてではない――
先輩
今度は俺の上に
そう思うのに
さして日数は
かからなかった――
は…はい
あっ……
はああ……
ピス…
はあ――あ――っ!!


ああああっ……
は……
ふあああああ
あっ……
ああ……
チュパ…チュパ…
あ…ん
はあ…は
アムル…
名名名名名


ビク
ビク
あぶっ……
ビク
ビク
んっ…!!!
ハァ…

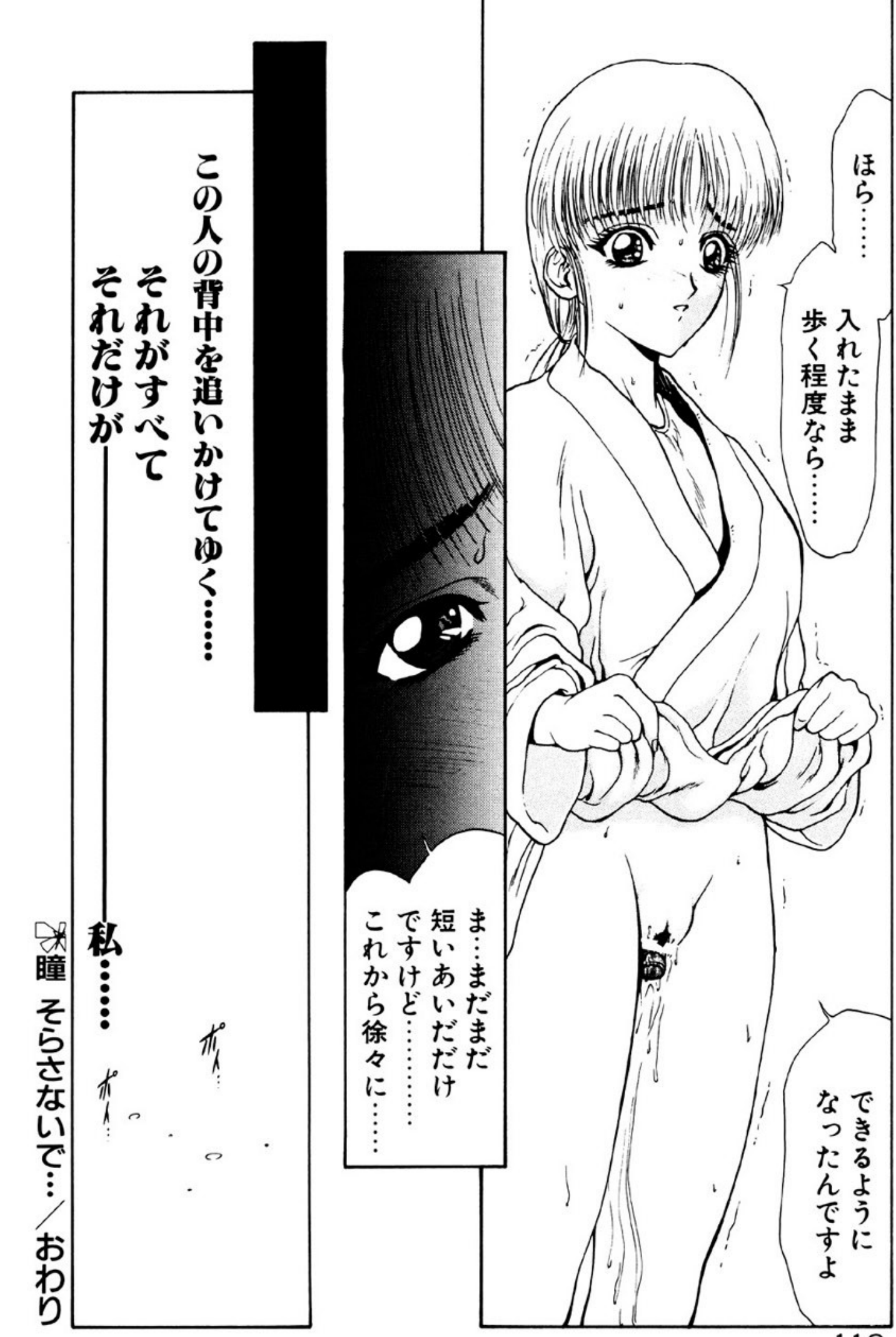




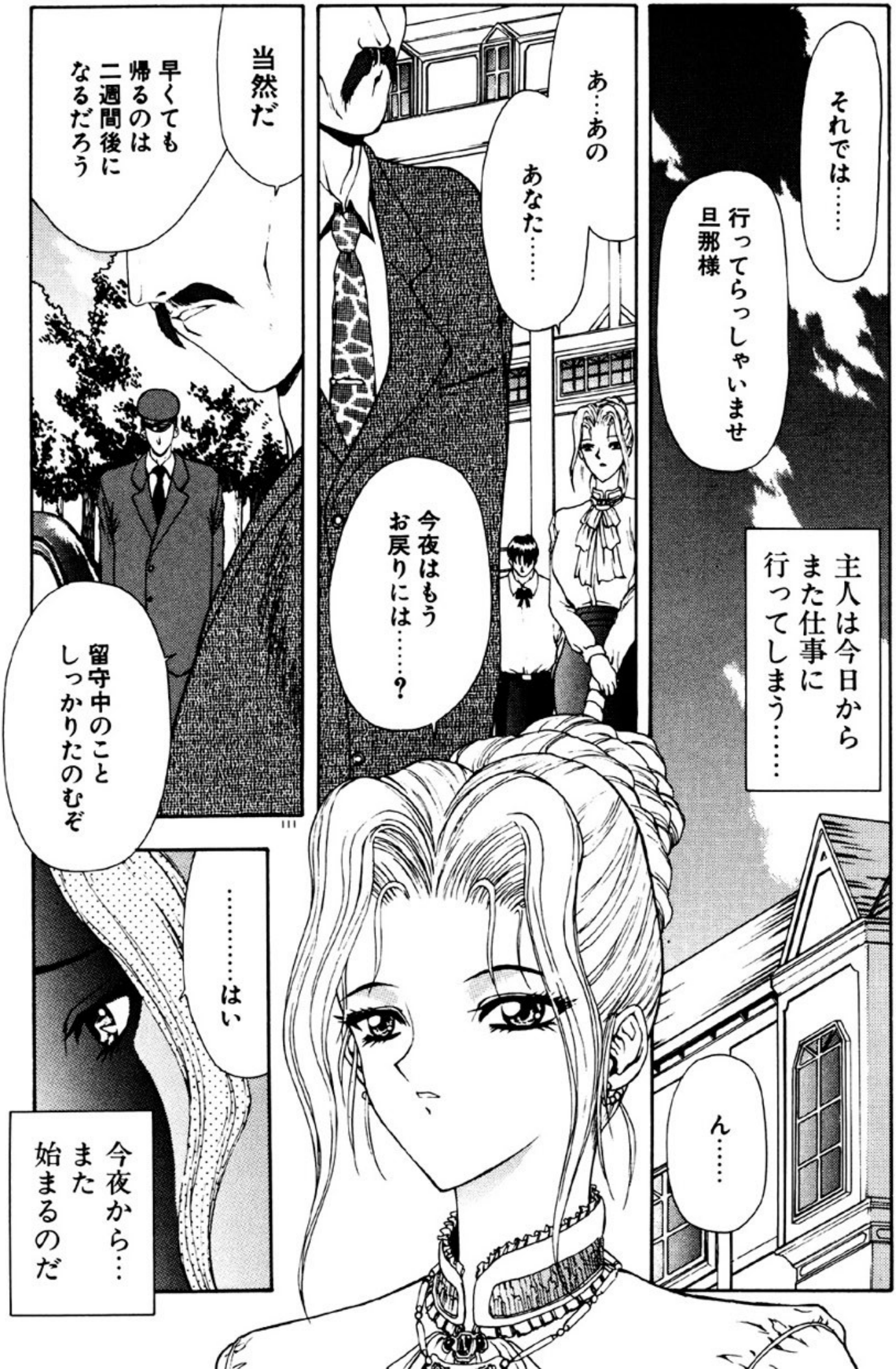


そう……

私はこの人の背中だけを見て歩いてきたのだから——

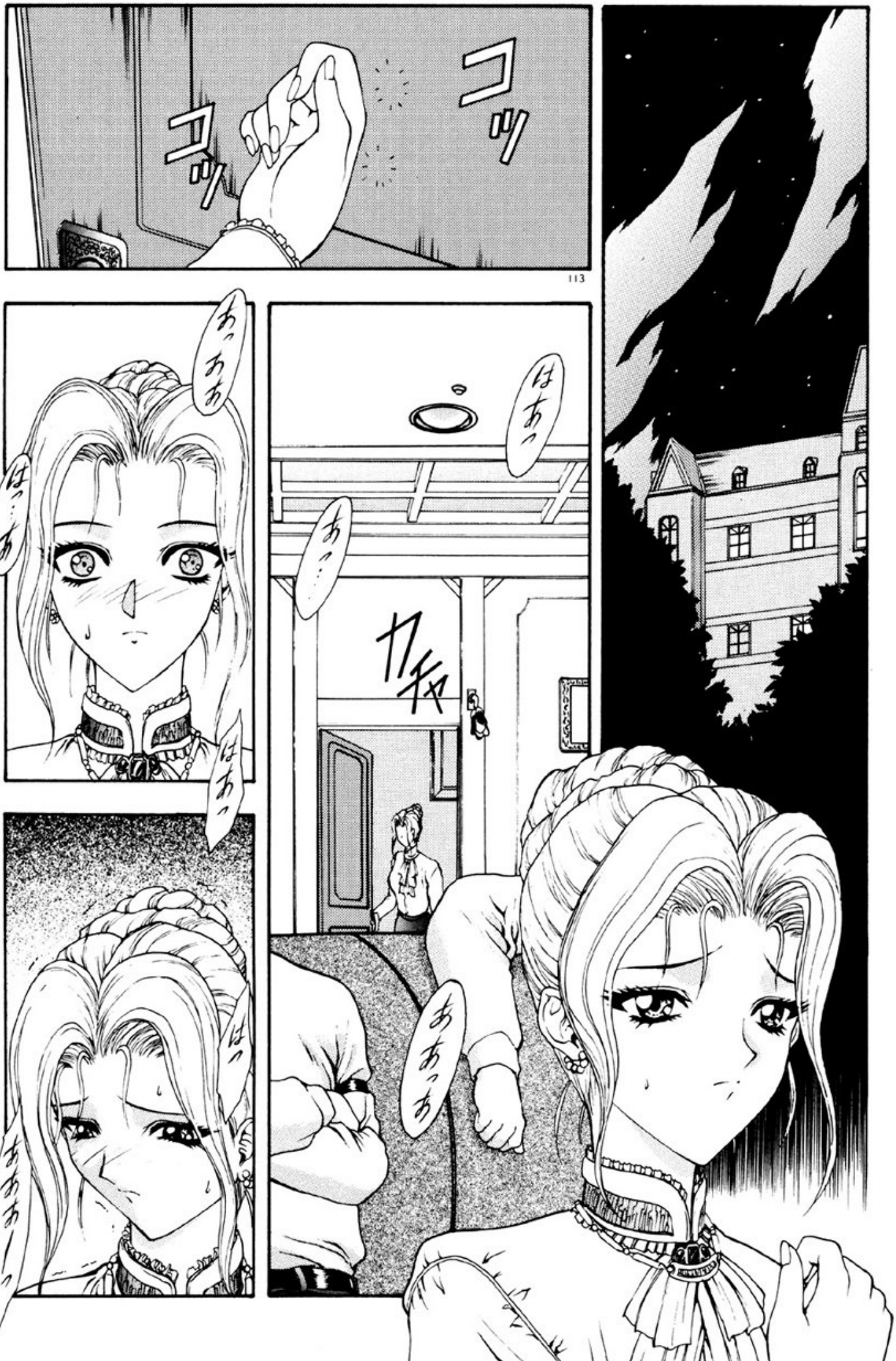

ほら……
入れたまま
歩く程度なら……
できるように
なったんですよ
ま…まだまだ
短いあいだだけ
ですけど……
これから徐々に……
この人の背中を追いかけてゆく……
それがすべて
それだけが——
私……
瞳 そらさないで…／おわり

報いの彼方


それでは……
行ってらっしゃいませ
旦那様
主人は今日から
また仕事に
行ってしまう……
ん……
あ…あの
あなた……
今夜はもう
お戻りには……？
当然だ
早くても
帰るのは
二週間後に
なるだろう
留守中のこと
しっかりたのむぞ
……はい
今夜から…
また
始まるのだ


報いの彼方
私にとって……
罪の報いとでも
言うべき
時間が――

報いの彼方



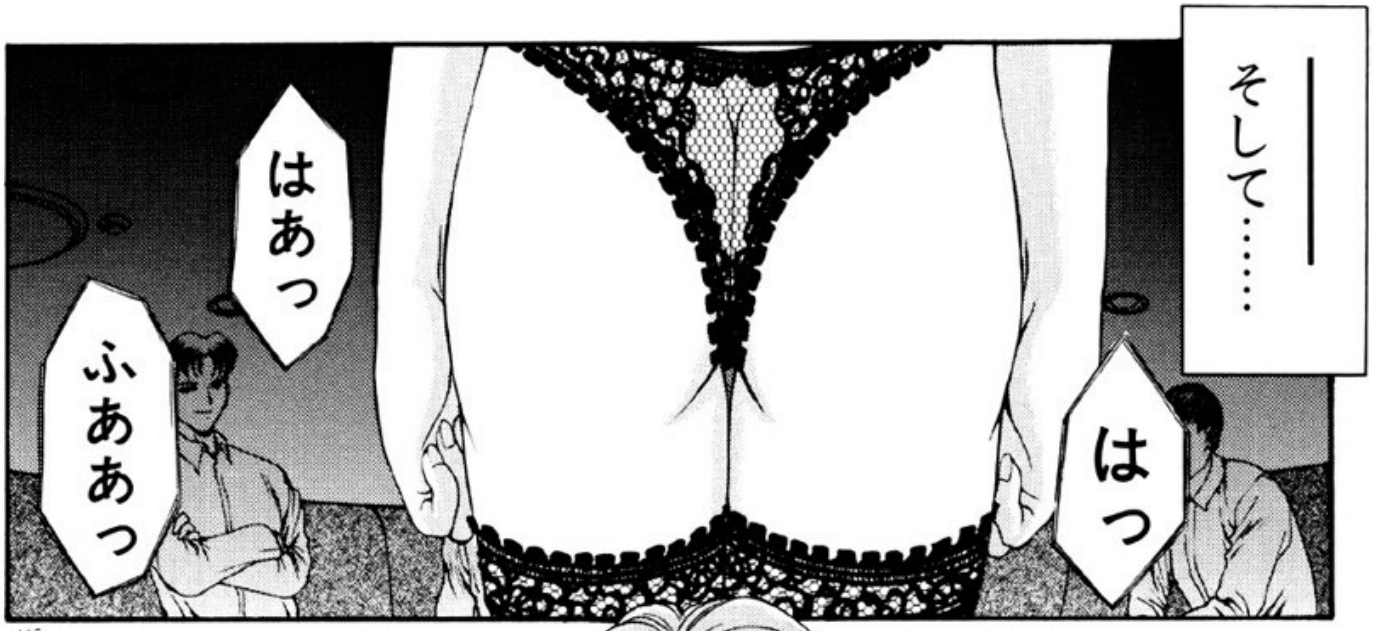

あっ…は……
はあ……
い…いい…
いいのお……


もっと…
もっとお……
私のオピーツ
もっとグチョグチョに
かきまわしてえ……

報いの彼方


あっ…と
奥様
いらしてたんですか
待ってましたよ
それじゃ
さっそく
始めましょうか


そう…
これは報いなんです
主人に見染められた時
明かせなかった
私の過去
あの人なら許してくれる…
そう思いながらも
私は結局
夫を信用することが
できなかった……
私は最初から
あの人を
裏切ってしまった


そして……
はっ
はあっ
ふあああっ


はっあ
あっ
はあああっ
その代償を払う日は
すぐやってきました
……
使用人の中に
私の過去を
よく知っている男が
いたのです

み…
みなさん

今日も一日
ご苦労さまでした
……

今夜も
不在の主人にかわって
妻である私が……

お礼の意味も
あわせて
みなさんの労を
ねぎらうため……

精一杯の
ご奉仕をしようと
思います

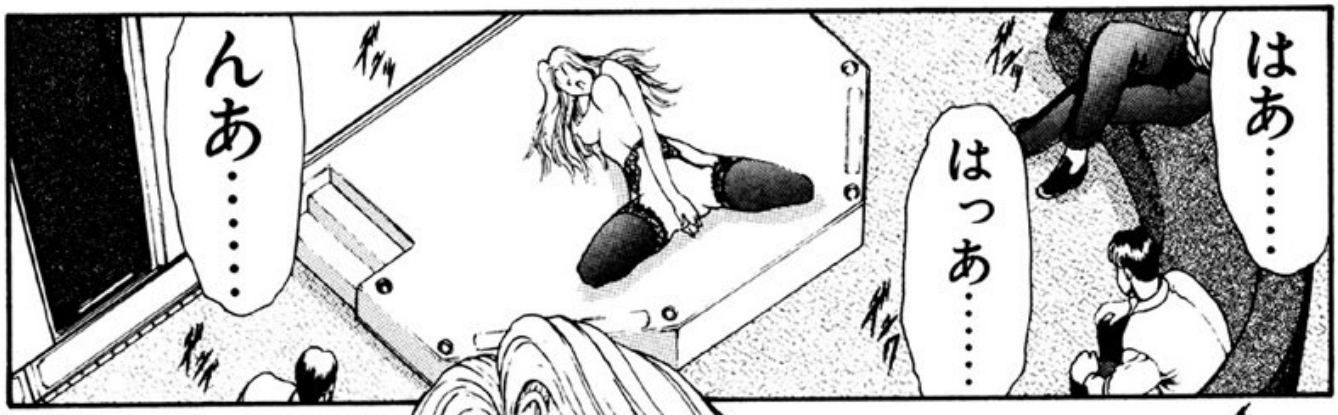
――――
まずは……

私の…
オナ……

……
オナニー…ショーを
ご覧下さいませ……


んん……
ん…ん
んん…ん
んあ…
ああ……


はっ…あ……
あっ…
あ…
ああ……


はあ……
はっあ……
んあ……


あ…はあ……
はあ…
あああ…
あ……


み…
見て下さい
イく…
イきます
私の
イくところを
……
ビクン
あっ……
はっ……
ああっ
あっ…はあ～～

私は口止め料として
身体を要求され……

ポタ
ポタ
ポタ

うしろめたさから
それを拒むこともできませんでした

そのあとは
まるで坂道を
転がり落ちるように
……

ハァッ
ハァッ

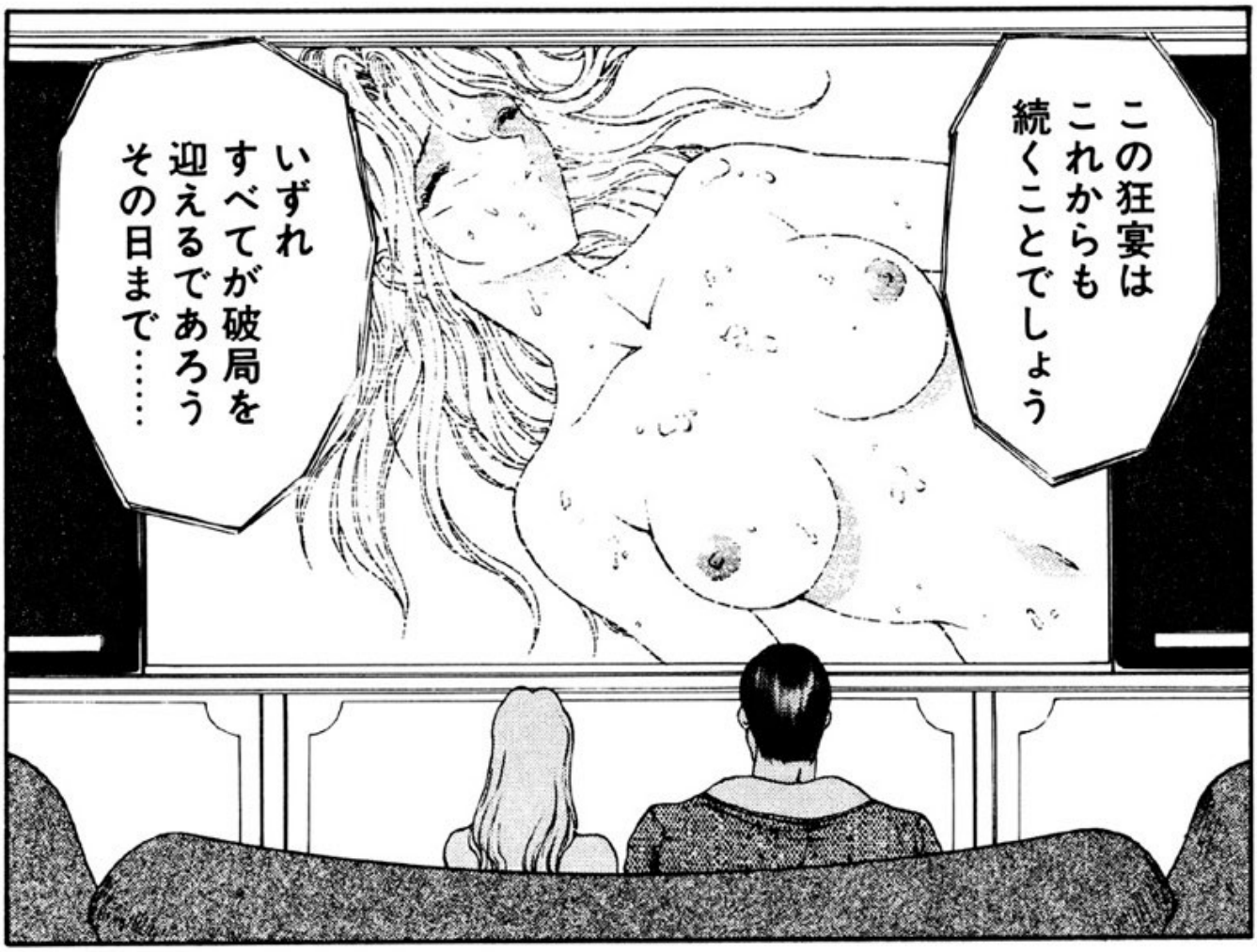
私は――

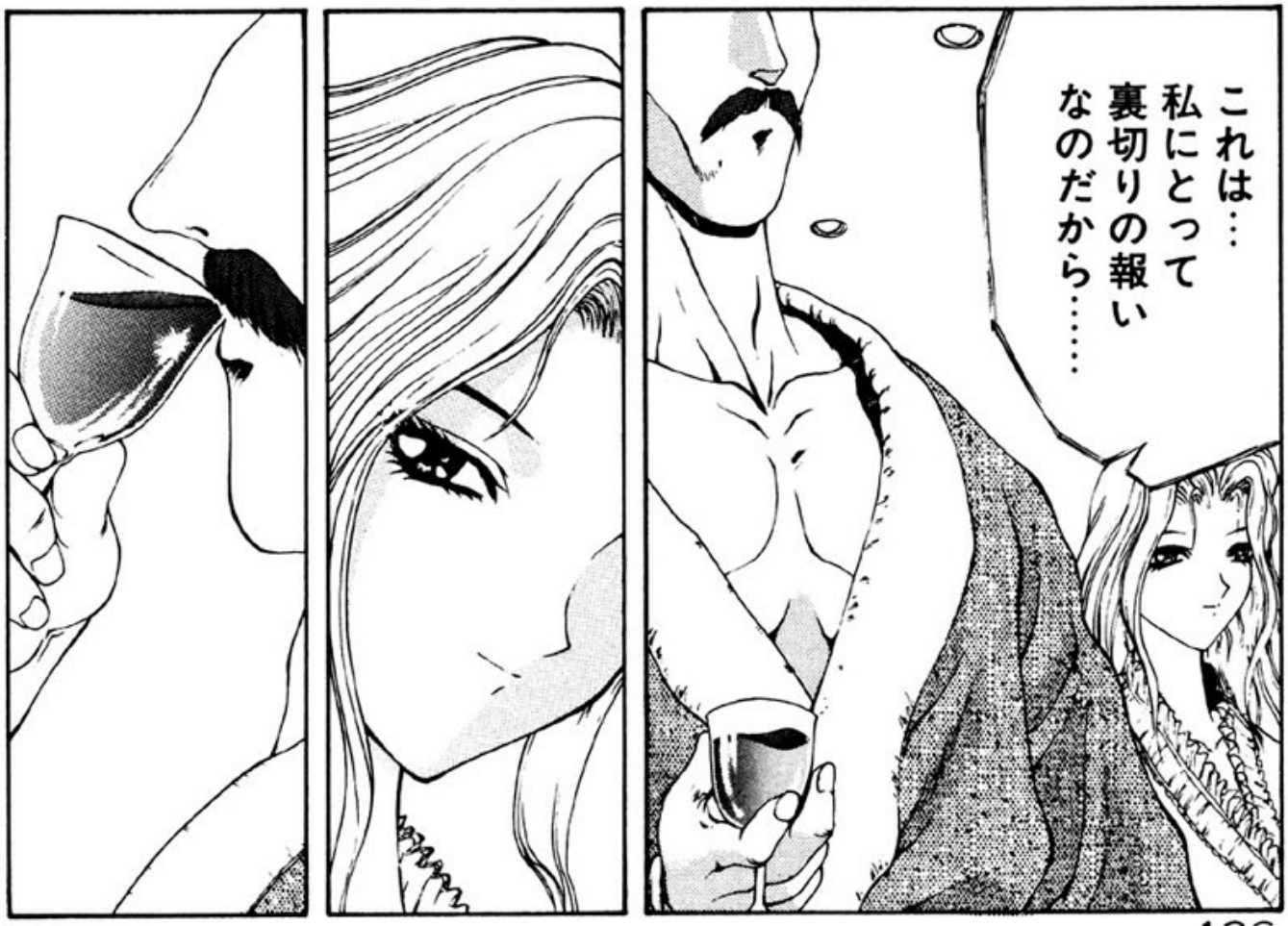

はっ……
ああ……
あはあ…あっ
はあ……
あっ…あ
グイ


ふ……
んぶ……
ん……
ふ……う
う……ぶ
んん……

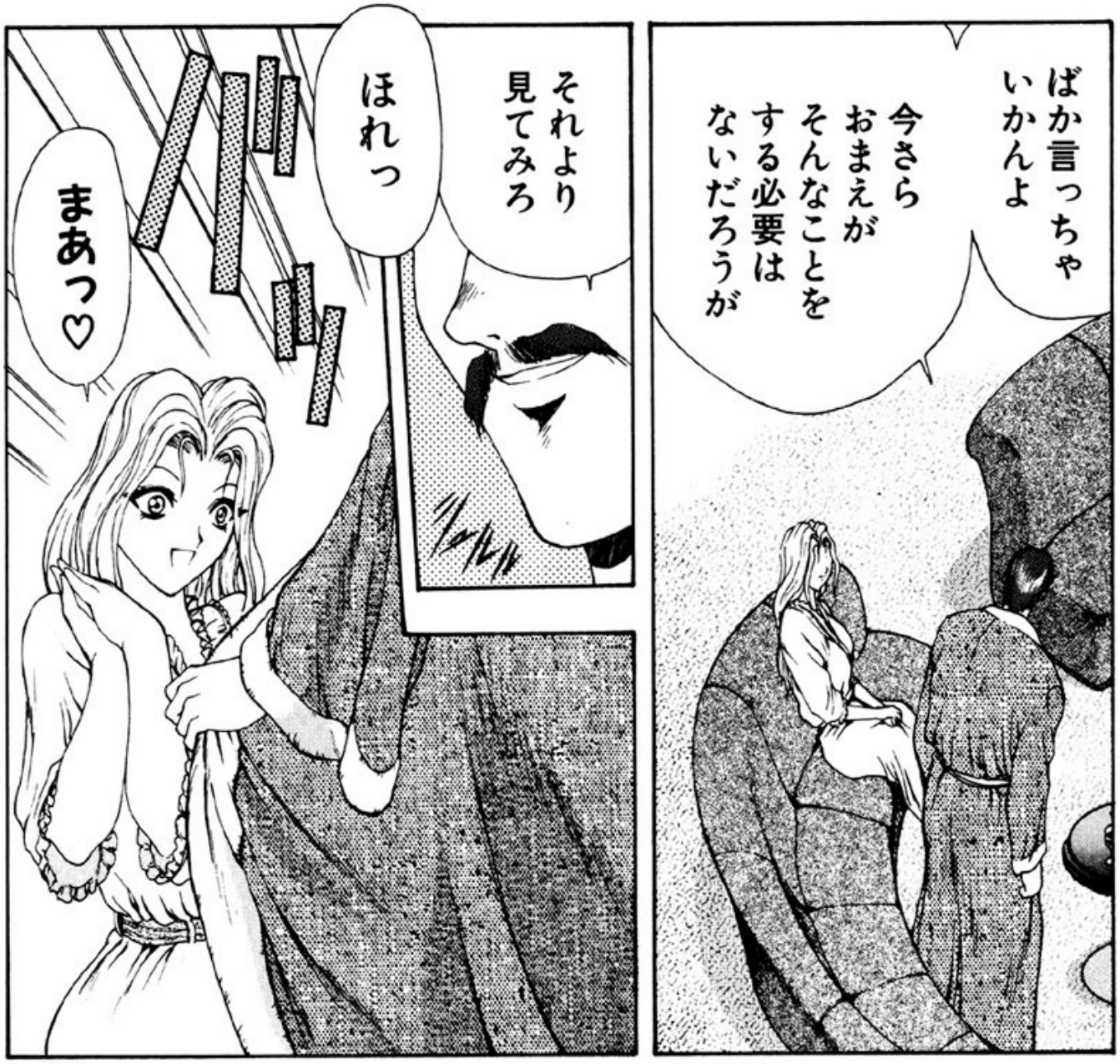

ふあっ…はっ
あはっ……
はああっ
もっと
突いて……
もっと
私の……
オ…
オ〇〇〇……
グチョグチョに
かきまわしてえ

あっ……
もう……
私は
後戻りすることは
できません……
はあっ……
ドク
ドク
あ……
ああ…あ……

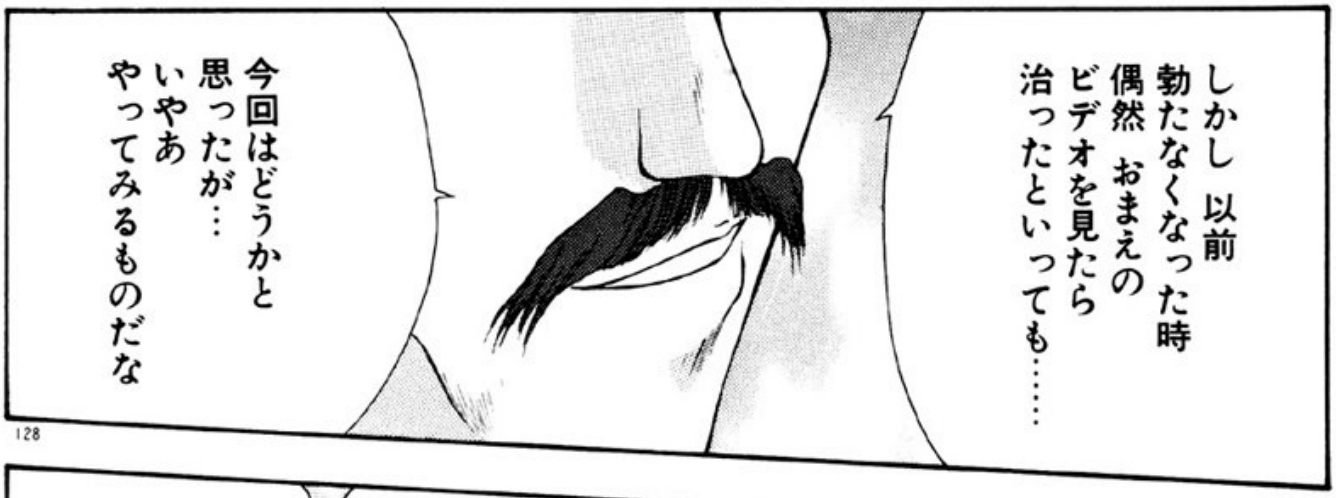

この狂宴は
これからも
続くことでしょう
いずれ
すべてが破局を
迎えるであろう
その日まで……


これは…
私にとって
裏切りの報い
なのだから……


ふむ…
なかなか
良い出来だ
これなら
実際に市販しても
売れるだろうな
あら……
そうするの？
なら 出演料
下さいね


ばか言っちゃ
いかんよ
今さら
おまえが
そんなことを
する必要は
ないだろうが
それより
見てみろ
ほれっ
まあっ♡


すてきよ
治ったのね
あなた
はっはっはっはっ
おまえの
名演技のおかげだ


しかし 以前
勃たなくなった時
偶然 おまえの
ビデオを見たら
治ったといっても……
今回はどうかと
思ったが…
いやあ
やってみるものだな


フフ…そうね
でも あの時は
ビックリしたわよ
いきなり
恩人だから
結婚してくれ
…なんて
言ってくるんだもの

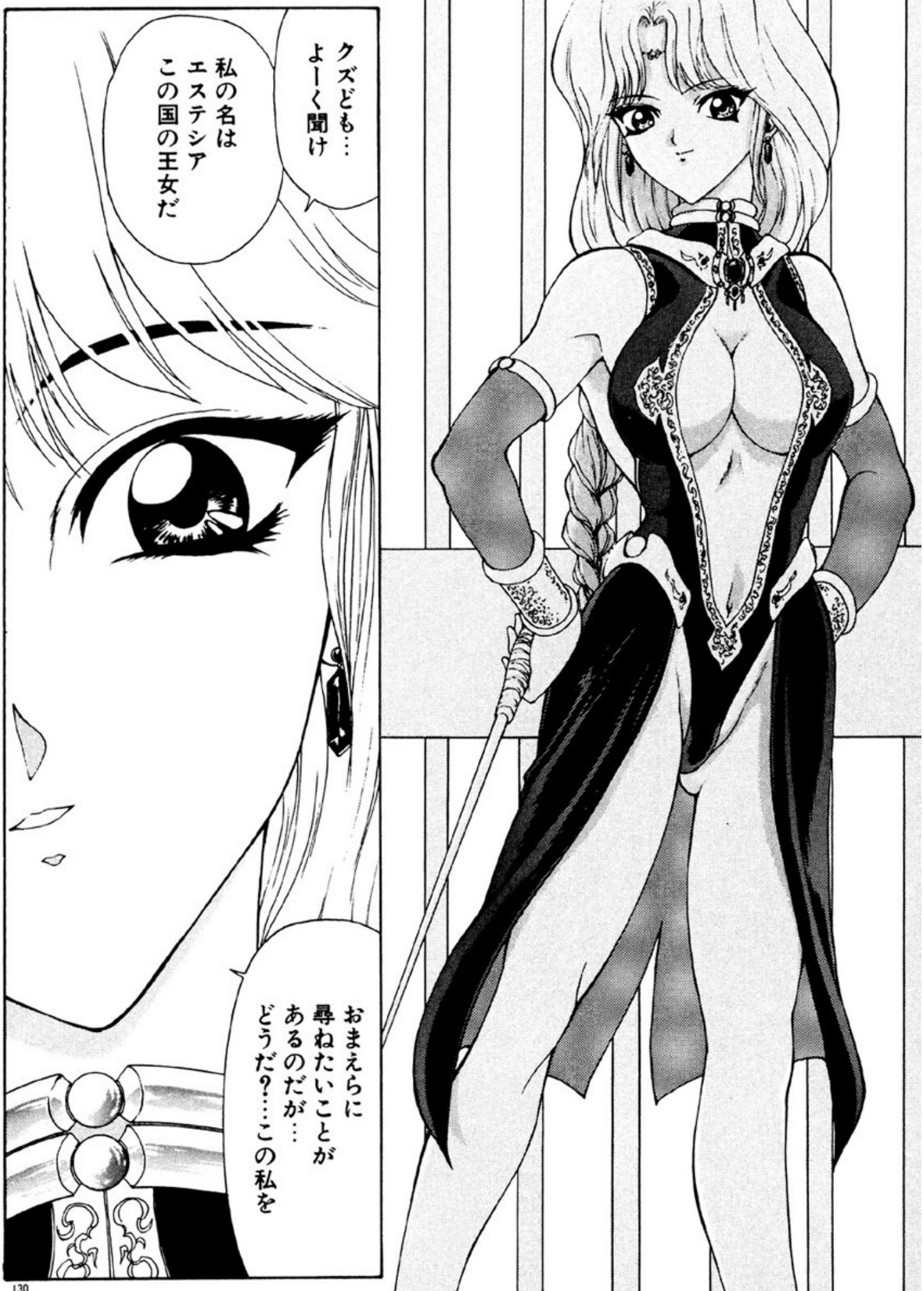

そんなことより
あなた
今夜は
寝かさないでね♡
はっはっはっはっ
まかせておけい

報いの彼方／おわり


ここは
私の遊び場
……
ここには いつも
最高の刺激が
待っている

PRISON GAME


私だけが
楽しめる娯楽……
退屈な日常では
味わうことの
できない快楽が
ここにはある


クズども…
よーく聞け
私の名は
エステシア
この国の王女だ
おまえらに
尋ねたいことが
あるのだが…
どうだ?…この私を

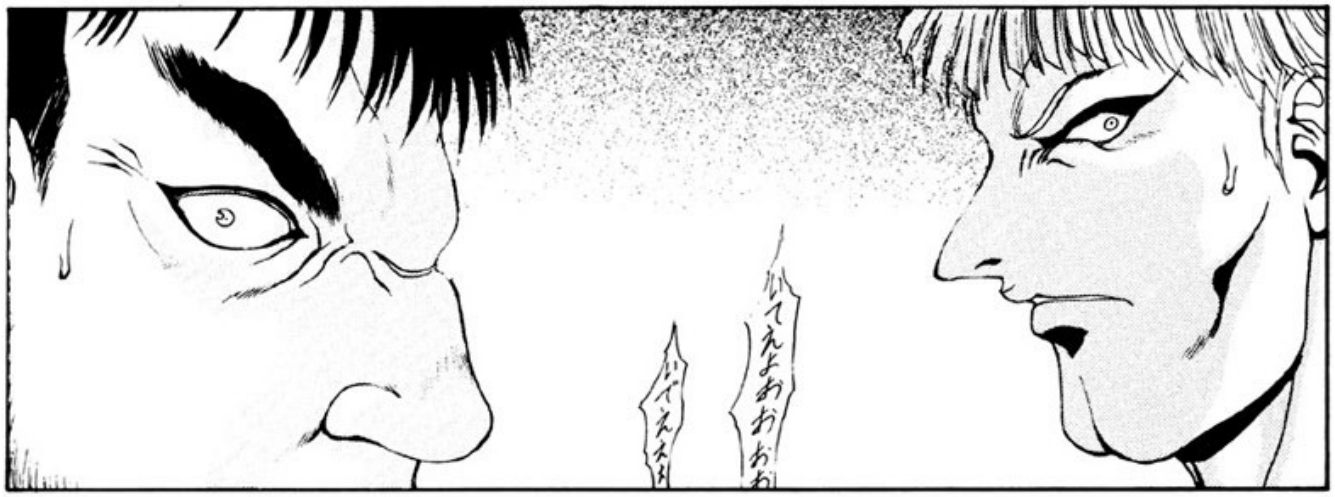

抱いてみたいとは
思わんか？

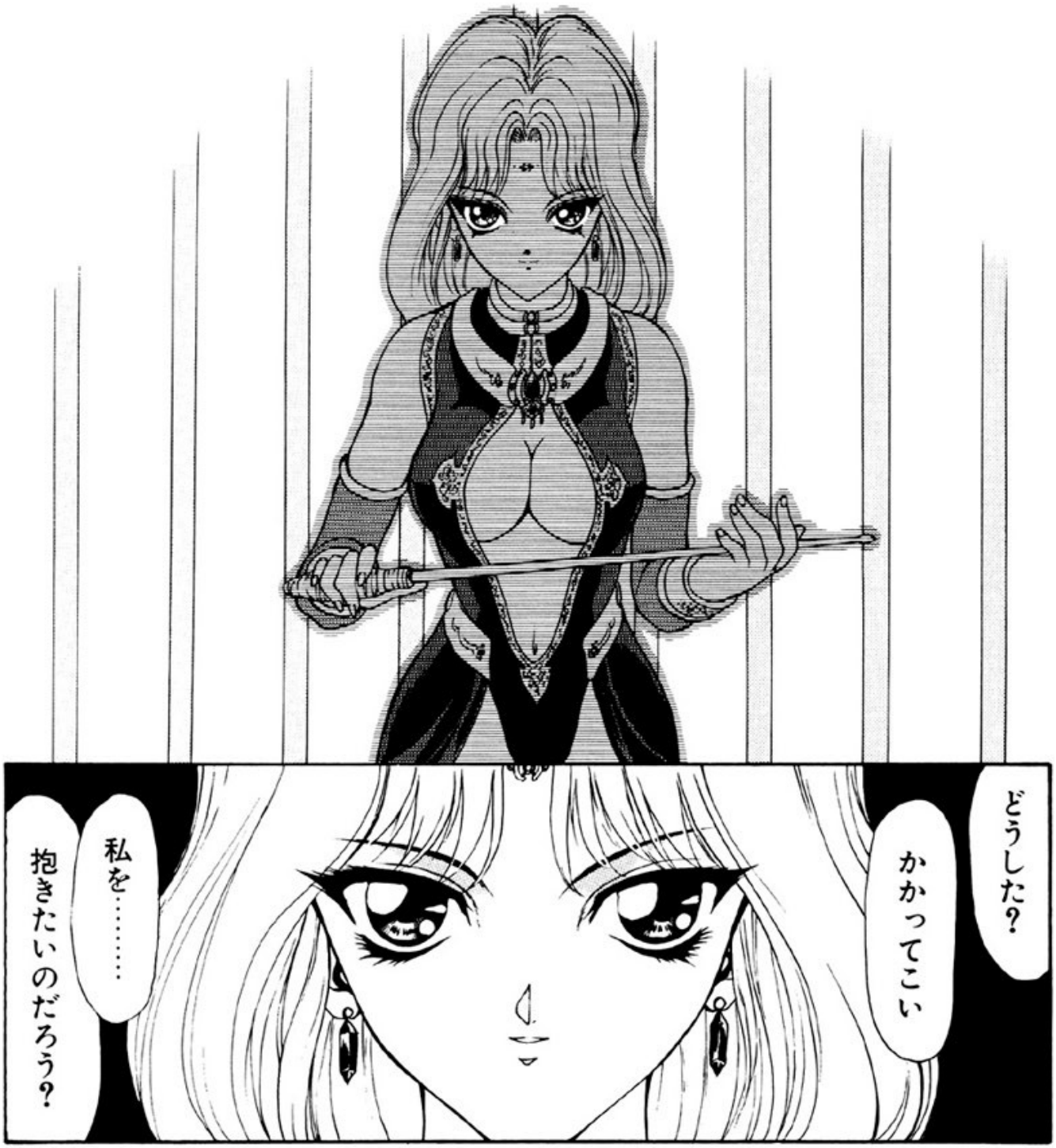

女……
女だぜ…おい
女だ……
あ…あんな
いい女……
初めて見たぜ
それに
見ろよ
あの身体……


たまらねえ……
もう
何ヵ月も……
へへへ……
女……
逃がすなよ……

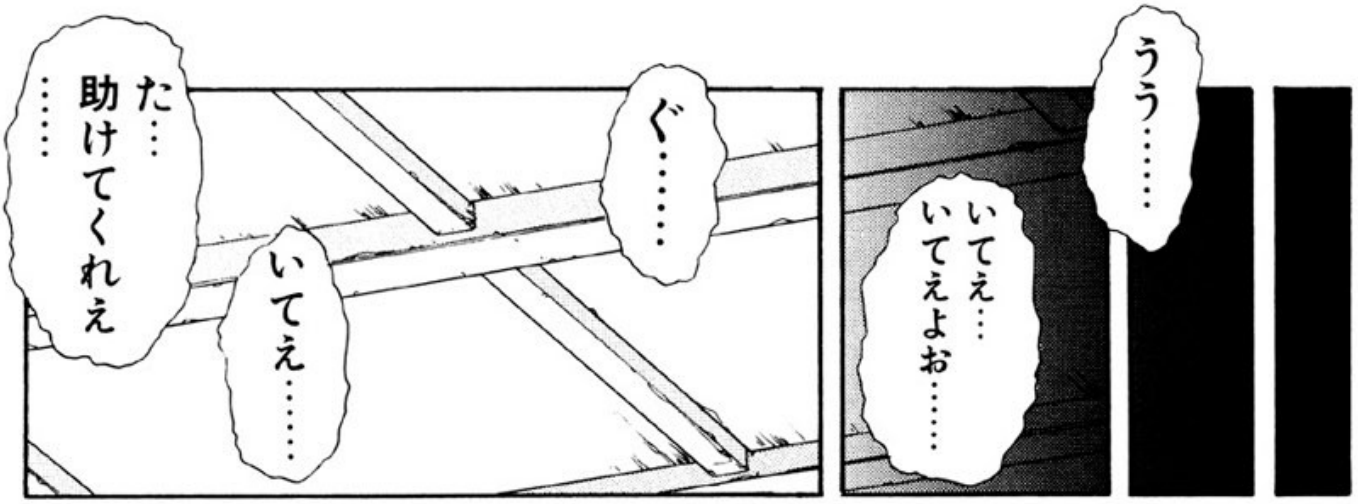

ひゃはははあっ!!


いでっ…!!
いでえええええっ!!
ゴロッ
ゴロッ
ああああああ




どうした？
かかってこい
私を……
抱きたいのだろう？


この女(あま)あっ!!!


ううう……
いてえ…
いてえよお……
ぐ……
いてえ……
た…
助けてくれえ
……

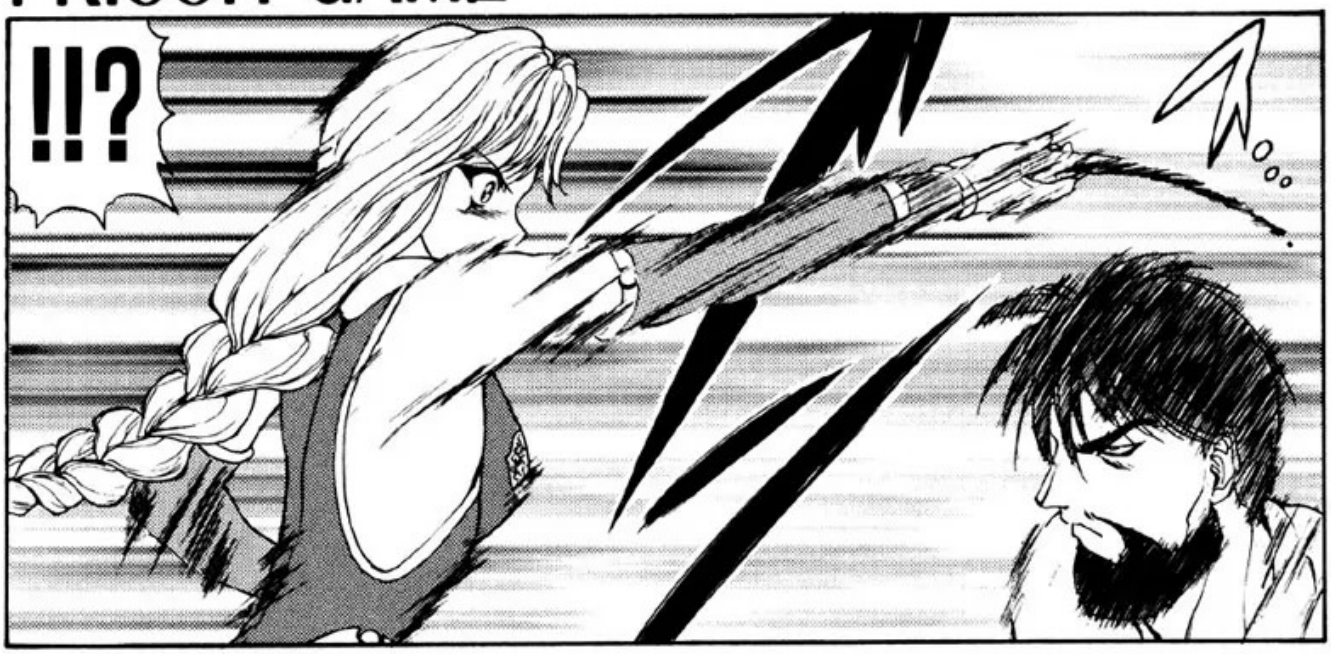

う…ぐ
あ…う
ビチャッ
死ぬ……
死んじまうよ
フン……


おまえで最後だ
さあ……
かかってこい
パ…


私を
好きにしたい
だろ？
この身体を
自由に……




……


!!?


ちっ!!


!?……


あ…が……
ピピピピ


ゲサッ
139
や…
やった
す…
すげえじゃねえか
あんた……
ホ…ホントかよ
なんでお姫さんが
こんなことを…!?
それにしても
この女…
自分は王女だとか
ぬかしてたが……
ああ…
そのとおりだ
見たことがある
こいつは
正真正銘
エステシア
王女様だよ
さあな…
おおかた遊び半分で
俺達をからかいに
きたんだろうが…
まこの俺がいたのが
運のツキだったな


や…
やめろ!!
貴様ら…
こんなことをして
許されるとでも……
さ…さわるな!!
汚らわしい!!
このスベスベの肌……
これが王女様のオ○○○か…
へへへ…どれ普通の女と違うところがないか探してみよ
140
い…いやっ!!
……
いやっ!!
いやあ——っ!!


いい身体だ…
本当に…
いい身体だなあ……
お…俺…今
王女様と
キスしてるん
だよな……
ん…
ん……
ヒヒッヒヒ……
かわいい指だ…
喰っちまいたいぜ
ククク……
ヒャハハハハハ
141


あ……
あは……
ああ……


いいぜ…いいぜえ!!
これが王女様の味か…
最高だぜ!!
ふあ……
たまらねえな…
こいつが
さっきまでの
あの高飛車な女だと
思うと……
あ…あ
あ…は
は……
へへへ…
みじめだねえ 自分で
クズ呼ばわりした男達に
嬲られてんだからな

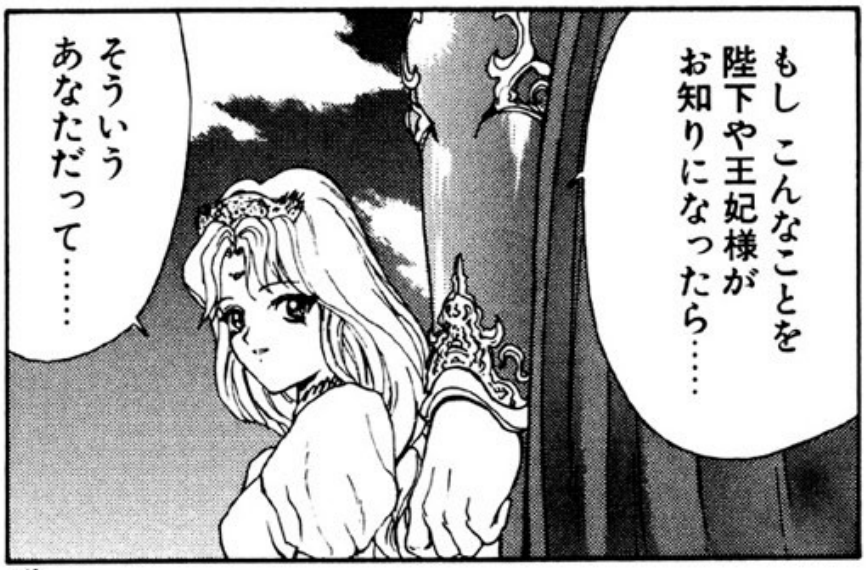

うぶっ……
どうだい
今の気分はよ?
え?…
え?……
ん……
こんな地下牢に
誰も助けになんて
きちゃくれねえぜ
ん…む
つまりな…
あんたは
もう完全に俺達の
性奴ってわけだ!!
ヒャハハハハハ


!?
おっと……
全部飲みほすんだよ
143
んんっ…ん――っ!!
グゲ…
ゴキッ ゴキッ ゴキュッ ゴキュッ
へへへ…
出すぜ
出すぜ……
王女様の膣内に……
おもいっきり
注ぎこんでやるぜぇ
!!?
い…いやっ
やめてっ……
出さないでえ!!!
ダメえええ…
ドクドクドクドク



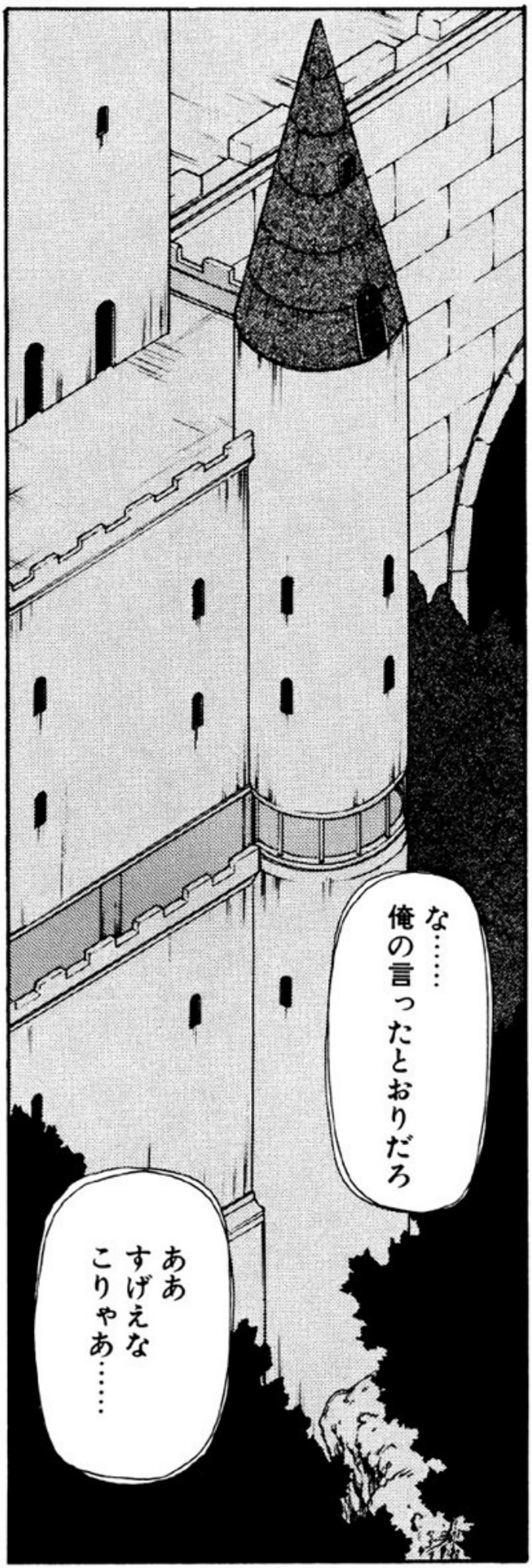

へへへ…
もう自分から
腰 振るように
なってきたな
いやらしい
お姫様だね
まったく…!!
がっつくなよ
まだまだ たっぷり
飲ませてやるからよ!!
む…ぐ
ん……
ヒヒヒ…
ガキが
できちまったらよ
産んでくれよな
王女様よ!!
ドドド


あ……
……
ヒクヒク
ビクビク
ビチャ
ビチャ
ビチャ


もし こんなことを
陛下や王妃様が
お知りになったら……
そういう
あなただって……


そんな
近衛隊長の
鎧より……
最近は よっぽど
あの囚人服の方が
似合ってきてるわよ
お…
お戯(たわむ)れを……
そんなことより
……
あの囚人達の
処理は
済ませたの？
は…はい
昨夜のうちに
全員……


そ……
なら
次の囚人の
手配……
急いでね
あれは
私だけのモノ……
私だけが
感じることの
できる快楽
私だけが
楽しむことを
許され……
この世で唯一
最高の……刺激


な……
俺の言ったとおりだろ
ああ
すげえな
こりゃあ……


まさか
あのうわさが
本当だったとはな
こうして見てても
まだ
信じられねえぜ


なんたって
我が国の王女様とも
あろう女(ひと)がよ……
ん……
ん…
ん…ん

NONSTOP SHAMELESSNESS

PRISON GAME II




……
それにしても
あろっ
あはっ
はっ
正直
見てるだけってのは
生殺しだぜ


ヤっちまうか？
このあとにでもよ
はあっ
あっ…
あろっ
はっ…
顔を隠せば
バレやしねえぜ
絶対
んふっ
ふふっ
そうだな
へへ…
やるか!!
まあ…
待てよ


近衛隊長が？
あの「鬼姫」って呼ばれてるエステシア王女とまともにやりあう気か？
それに 話によると近衛隊長のハルバドス様も裏で協力してるらしいぜ
ああ姫の遊び（ゲーム）に関わった者は一人残らず消されるそうだ口封じのためにな
!?
ひ…ひでえ話だな
じゃあこいつらもこのあと……

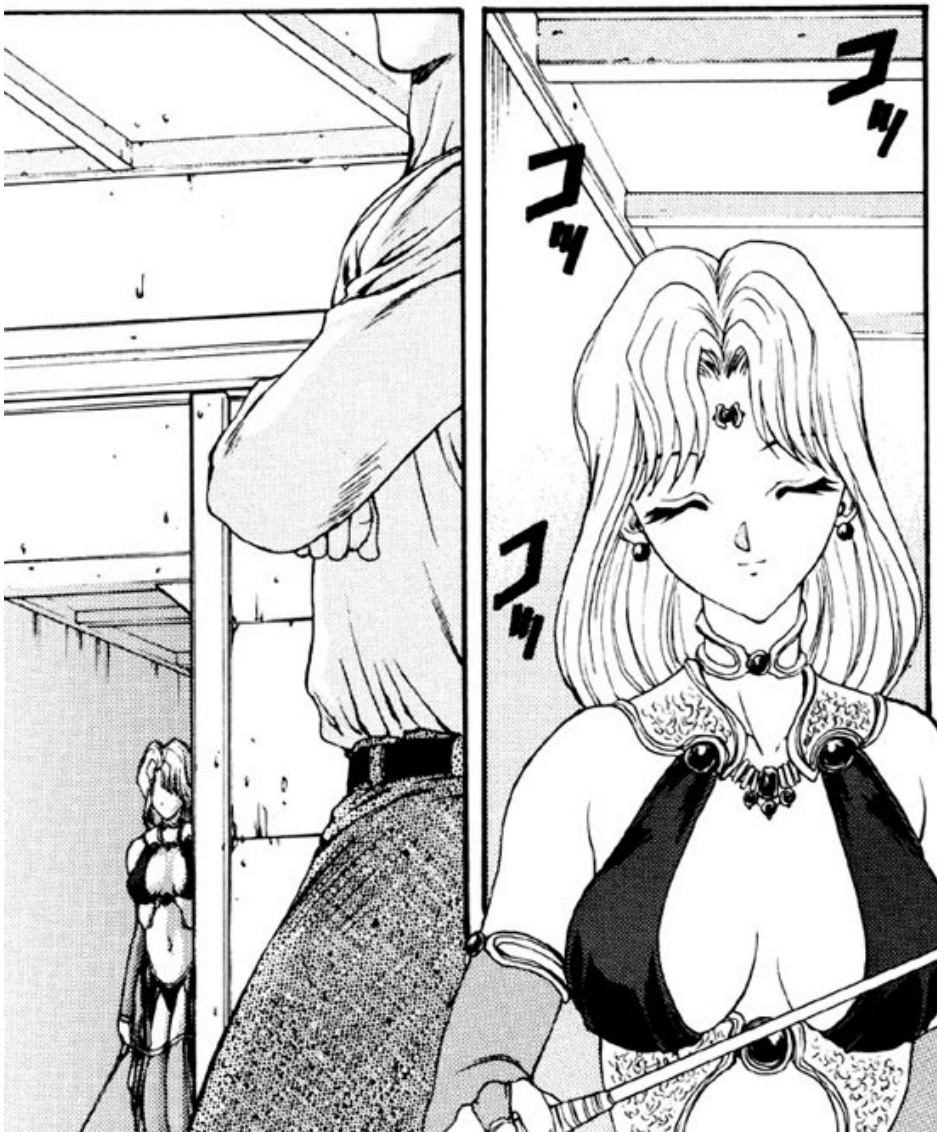

そこでだ……
どうだ
おまえら
151
俺の計画に
のってみる気は
ねえか？
計画？
そうだ!!
俺の言うことに
従ってくれりゃあ……
いい思いさせて
やるぜ
たっぷりとな


それで……
昨夜の後始末は
すべて
済ませたん
でしょうね
ハルバドス
は……
その点に
ぬかりは
ございません
ところで……
今夜は
どういたします？
準備はすでに
整えておきましたが

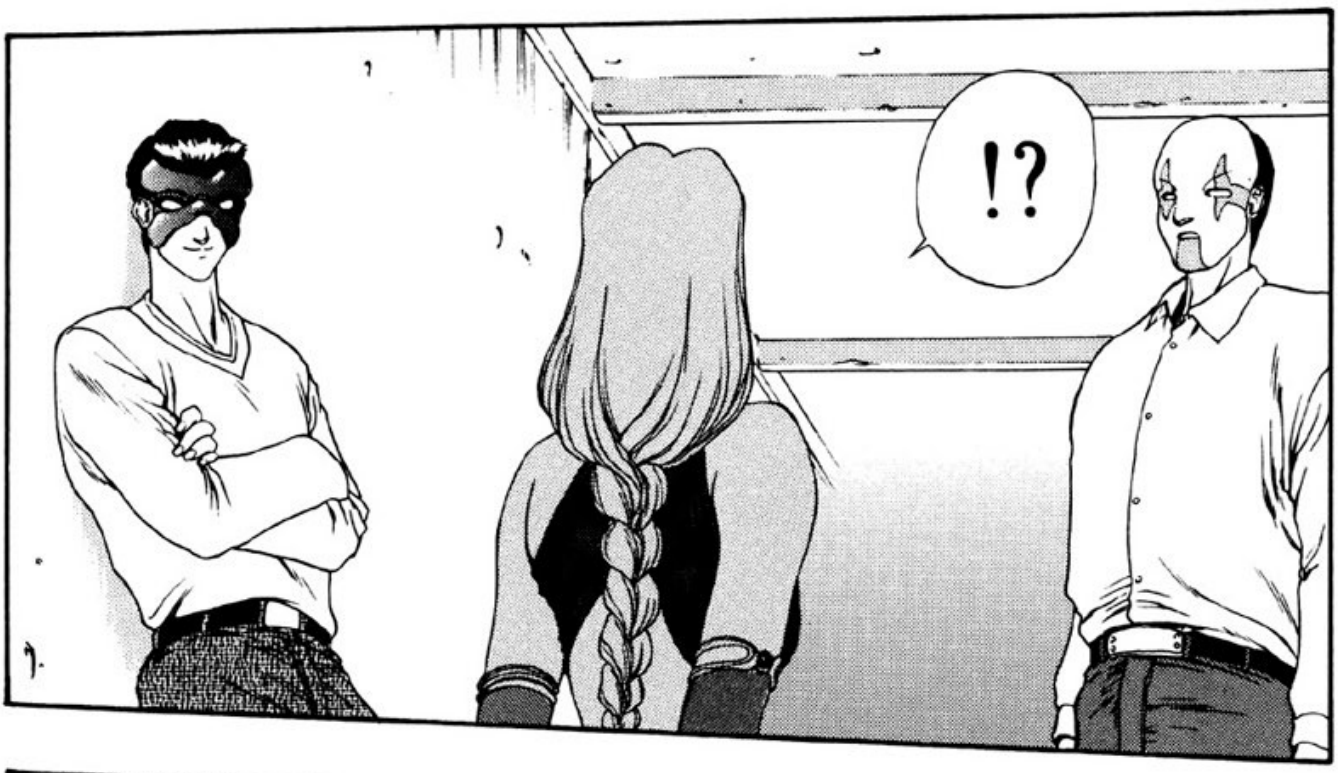

フフ…
あいかわらず
手回しがいいのね
それじゃ
遠慮なく
楽しませて
もらおうかしら

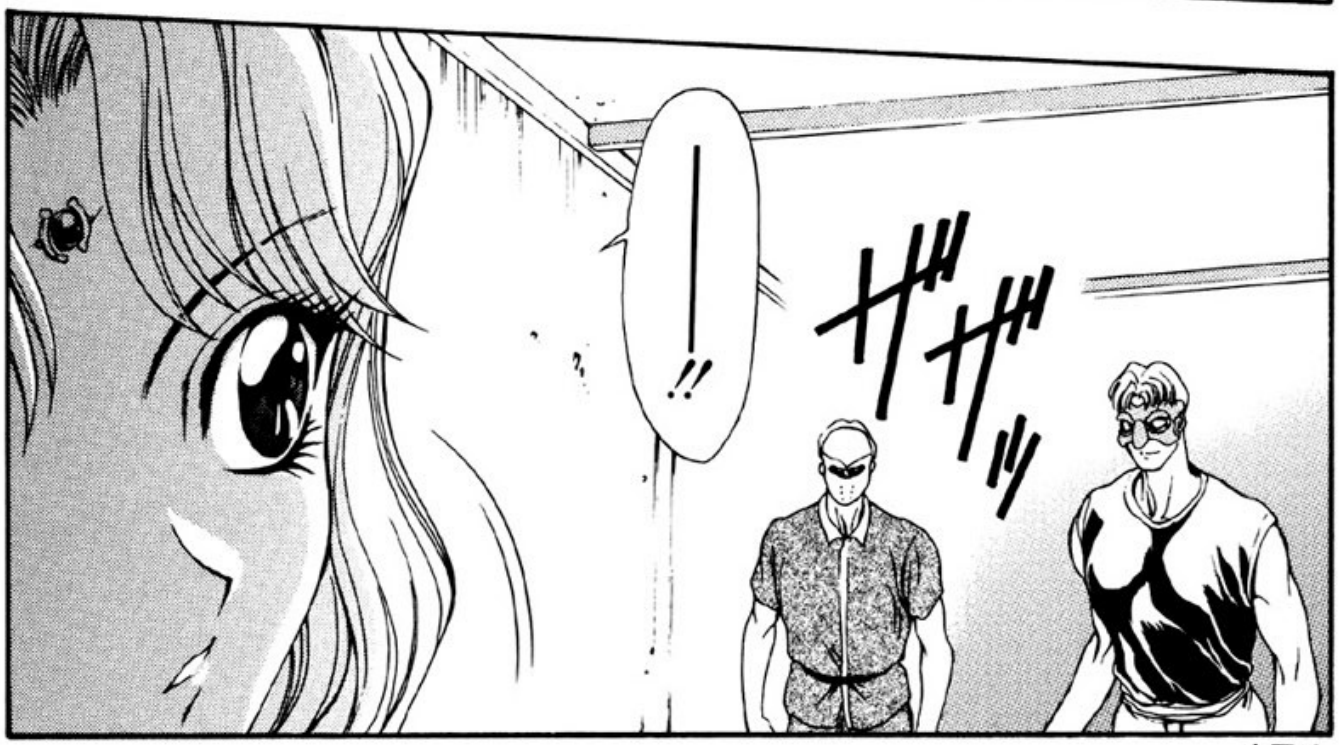



ははっ
どうぞ
ご存分に……

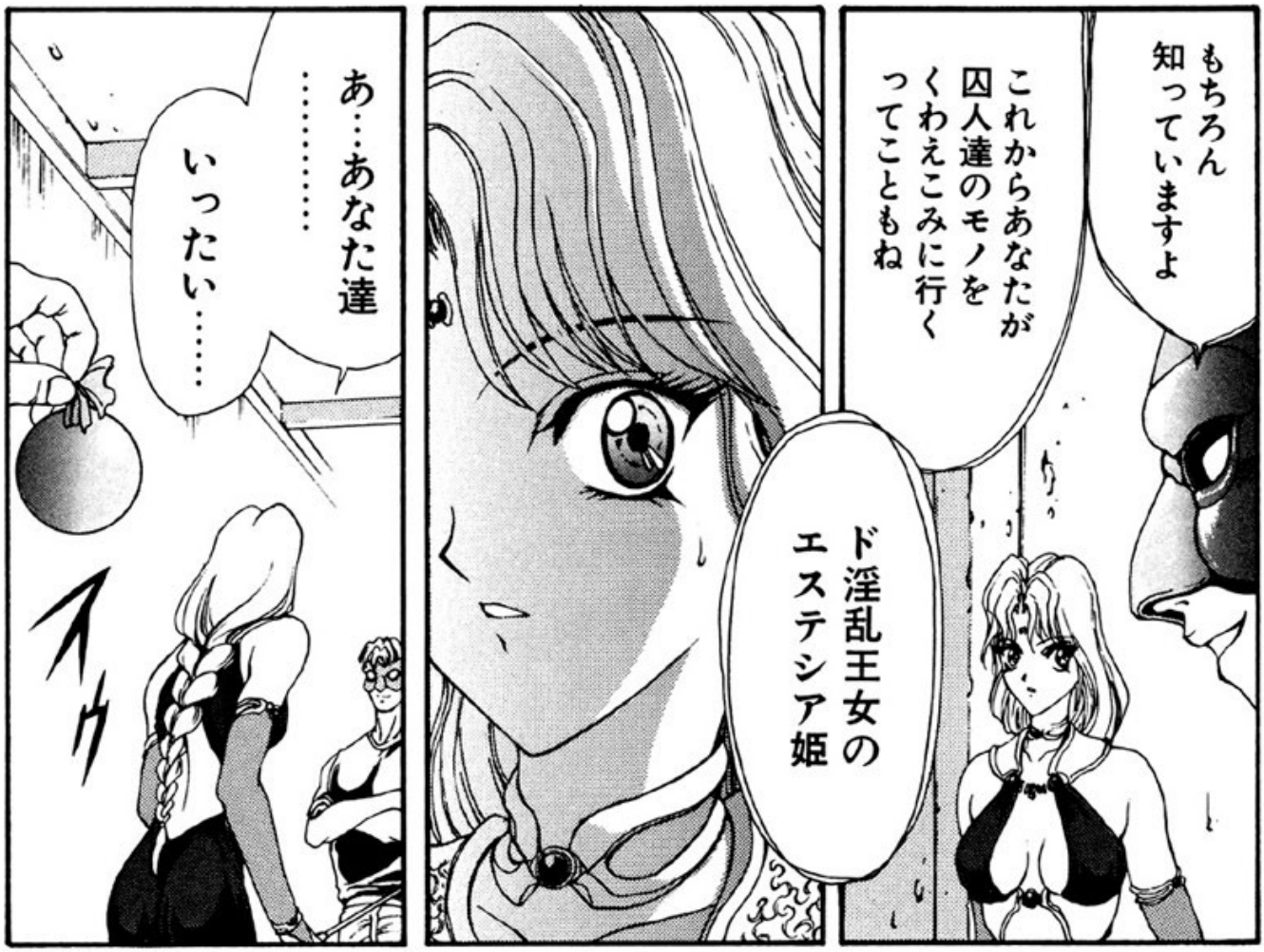

フッ
フッ
フッ








な…何よ
あなた達
私を
この国の王女と
知ってのことなの？


もちろん
知っていますよ
これからあなたが
囚人達のモノを
くわえこみに行く
ってこともね
ド淫乱王女の
エステシア姫
あ…あなた達
……
いったい……


ヒュッ!!
!!?
な…何っ!?
何よこれっ!?
ドクン


あ……
ああ……
ナガクッ!!


は…あ…あ……
ブル
ブル
ブル


どうです?
力が入らないでしょう
いくら
「鬼姫」といえど
薬には勝てませんよね


何…そんなに
心配することは
ありませんよ
ただ 相手が
少し変わっただけで
……

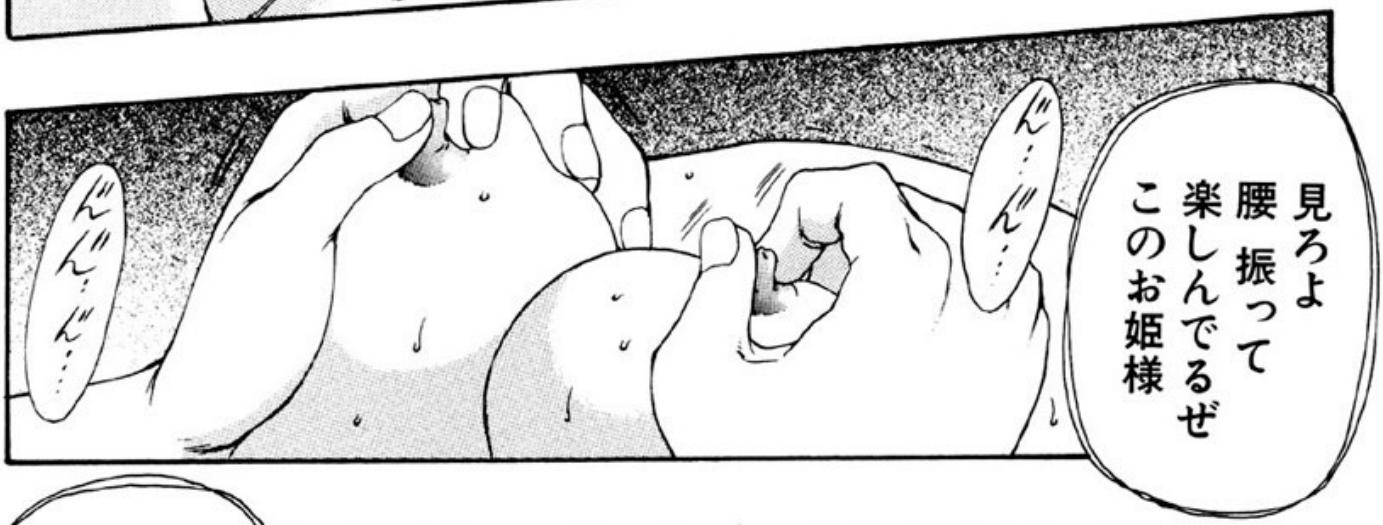

場所と
やることは……
いつもと同じ
なんですからね
……
ガシャーン


へへ…まさか
こんなに
うまくいくとはな
まさしく
あんたの
計画どおりに
なったわけだ
それじゃ
……
たっぷりと
楽しませて
もらうとするか
ビク
ビク
ビク
あ…あ……
はあ…ああ……
ハアハアハア


さ…
くわえて下さいよ
王女様
へへへ…
たまらねえな
ん……
んん…ん……
ん……ん
159


ん……
んっんん……
んん……
おやおや
さすがは
淫乱姫……
ちょっと
いじっただけで
これかよ
ニチャ
それとも
四六時中
こんなだったり
してな
ピチャ
ピチャ

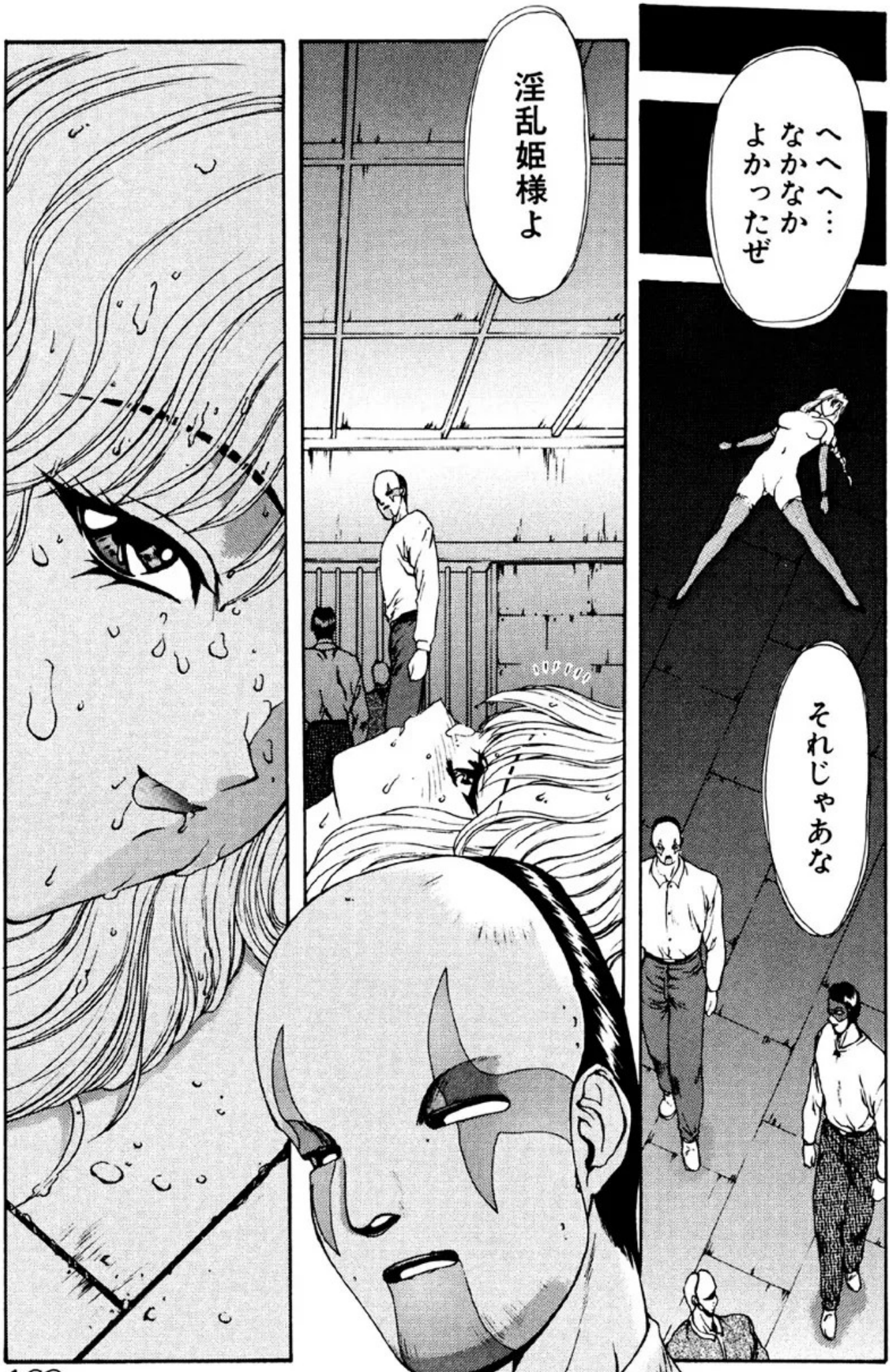

へへへ…
王女様をヤれる
なんてよ……
まさか
夢にも思って
なかったぜ
んっ……
んっ……
んんっ……


見ろよ
腰 振って
楽しんでるぜ
このお姫様
んっ…んん…
んんっ…ん…


こっちもだ
根元まで
くわえこんで
放そうともしねえ
んんっ
んんっ
んんっ


たいした
淫乱だぜ
まったくよ……
ヒヒヒ……
ククク……
161
締まる
締まるぜぇ
前もうしろも
最高に
締めつけてきやがる
これで 毎日
使いまくってる
なんて
信じられねえよな
さすがは王女様
穴の方も
最高級品を
持ってるってわけだ
ハハハハハ


まだ
足りねえか
どうだ
うめえだろ
俺のはよ
ほれ
くれてやるぜ


へへへ…
なかなか
よかったぜ
それじゃあな
淫乱姫様よ



NONSTOP SHAMELESSNESS／おわり


アイリッシュ
――ッ!!
ダッ
ダッ
ダッ
今でも
ときどき
思い出す――
165
姫

PRISON GAME 外伝

—REMINISCENCE—



あれは
今から十年前
……

その当時
私の傍らには
つねに警護役である
アイリッシュが
いてくれた

彼女は私にとって
心を許せる
姉であり……

敬愛すべき
師でもありました

草木や
花の名前……

さらには基本的な
剣術まで 彼女は
さまざまなことを
私に教えてくれた

私は
そんな彼女が
大好きでした

そして
彼女の言うこと
…やることを
なんの疑問も抱かず
受け入れて
いったのです

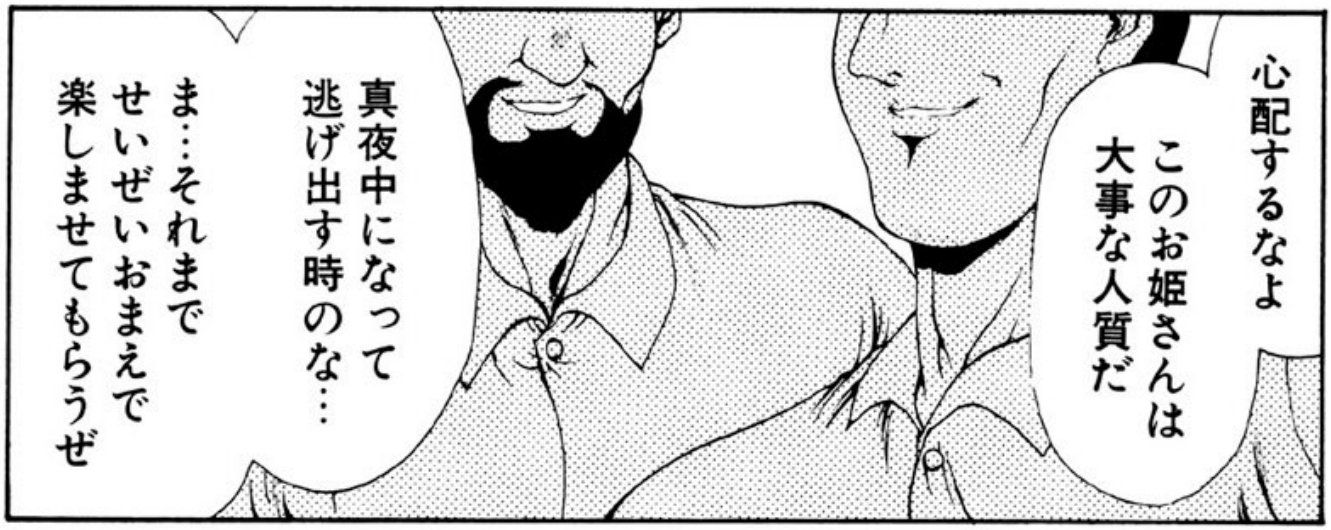

そんなある日のことでした
私にとって
忘れることのできない
ひとつの事件が
起こったのは……
んんっ
ぅんん
ピチャ
ピチャ
ふっ……
う……ん
んっ……んんっ!!
んん――っ!!


眼前で
繰りひろげられる
狂宴――
んっ!!
んっ
んっ!!
んんっ
んっ!!
ぷっ…は……
はあ……
んっ……
んんっ……


んっ…ん……
んん……
んっ……


ほれ…もっと
しっかり
腰 動かせよ
まだまだ あとが
つかえてるんだぜ
おまえができないって
言うんなら……
俺は あっちの
お姫さんに
相手して
もらおうかな
!!?
や…やめて!!
それだけは
やめてっ!!!

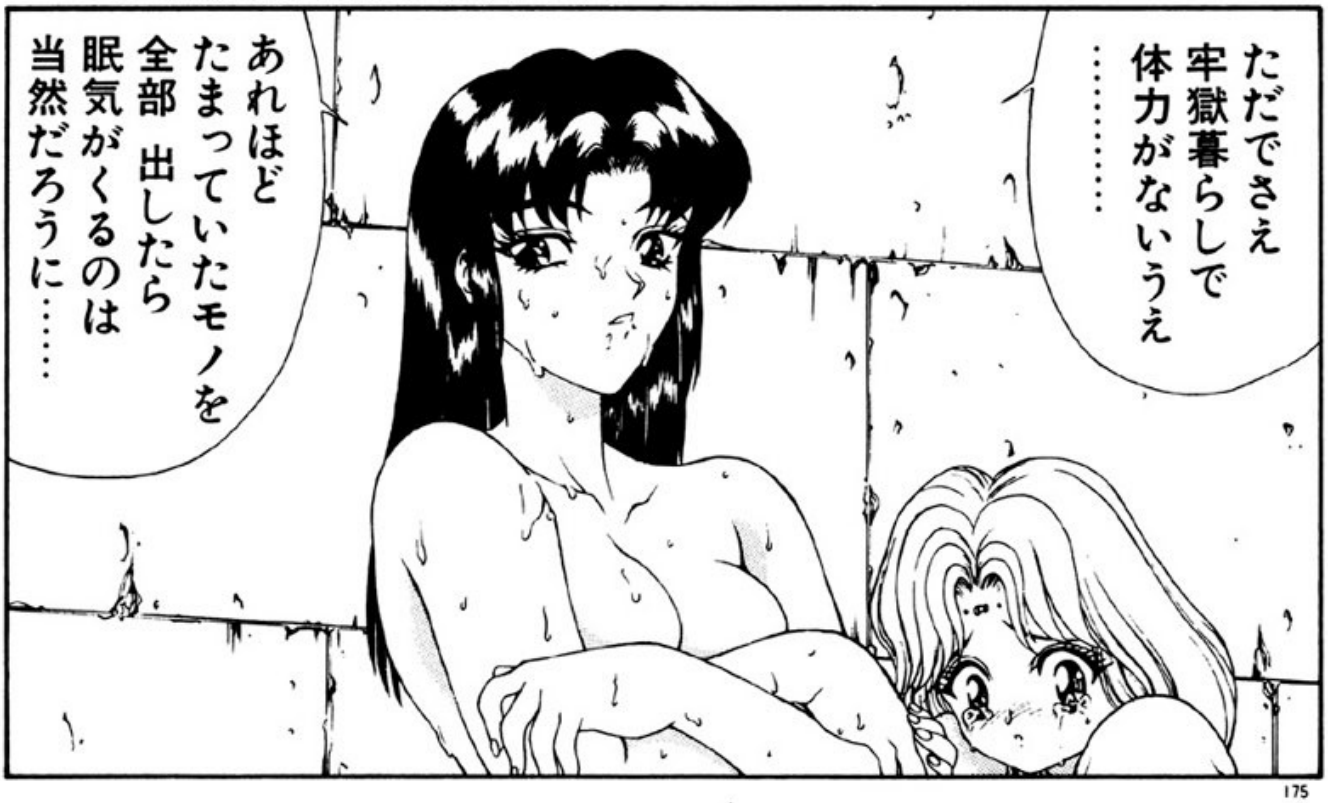

私が全員と相手しますから……
なんでもします!!
何をされても…どこを使っても構いませんから……
だからお願い……
姫には…姫にだけは手を出さないで……
私のせいだった……
アイリッシュが忙しくて遊んでもらえなかったことに駄々をこね……
構ってもらいたい一心で彼女の制止もきかずここに入りこんでしまったのだから……


心配するなよ
このお姫さんは
大事な人質だ
真夜中になって
逃げ出す時のな…
ま…それまで
せいぜいおまえで
楽しませてもらうぜ


そして彼女は
私を守るため
……
はっ
ふあっ
あっ
はあっ
ん……
プニ
コキュ


はっ……
ふあっ…はっ……
その身を囚人達のたまりにたまった欲望によって……
173
はあっ はああ——っ!!!
ズプッ
汚し尽くされていったのです
あ……は……
ビク
ビク
は……ふあ……は……

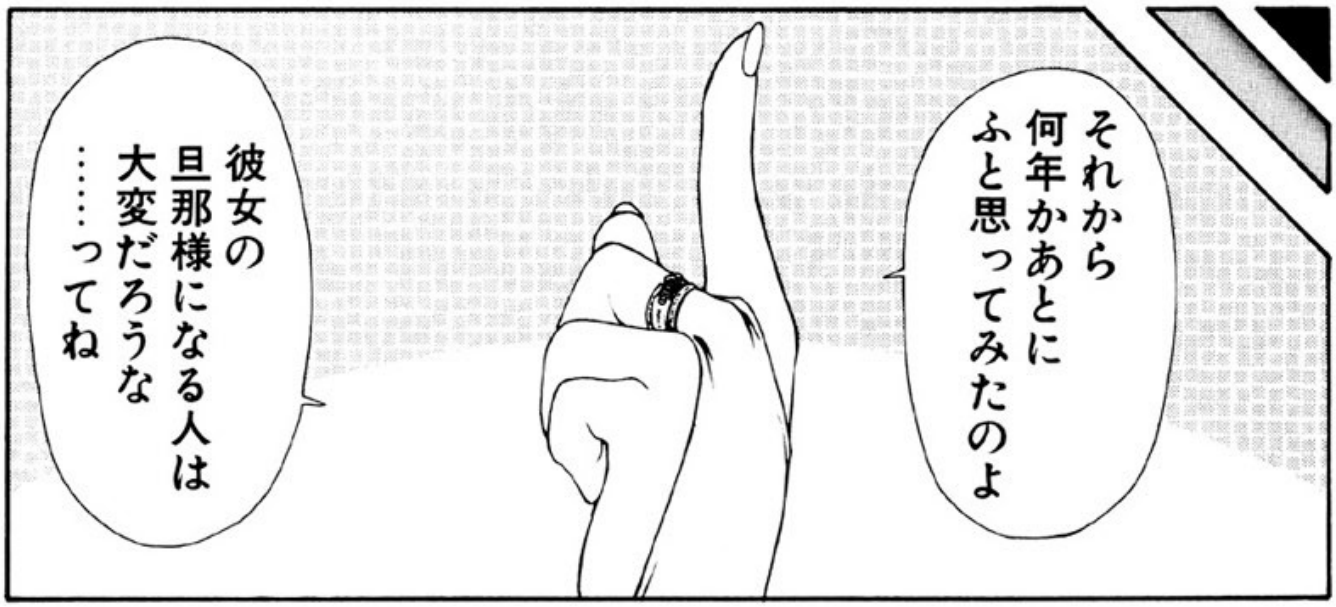

ア…アイリッシュ
アイリッシュ
大丈夫!?
ごめんね…
ごめんね
アイリッシュう
……
泣かないで下さい
姫……私は
大丈夫ですから
……
それにしても
チラ
間抜けな
連中ですね
……


ただでさえ
牢獄暮らしで
体力がないうえ
……
あれほど
たまっていたモノを
全部 出したら
眠気がくるのは
当然だろうに……


ね…ねえ
アイリッシュ…
本当に
大丈夫なの？
ハァハァ
ハァハァ


はは……
もちろんですよ
姫
かえって
ひさしぶりに
満足させてもらった
くらいです


……
思えばあの時の
彼女の態度が


それから
何年かあとに
ふと思ってみたのよ
彼女の
旦那様になる人は
大変だろうな
……ってね


……で
実際のところ
どうだったの？
ハルバドス
はあ……
若いころは
大変でした…
ひどい時には
一晩で十回以上も
……
後々の私に
多大な影響を及ぼしたのは
言うまでもないことでしょう

あとがき

初めまして　向　正義です
まずはこの本を読んでいただき　本当にありがとうございました。

僕にとって初めての単行本なのでやはりうれしさもひとしおです
つたない部分も多々ありますが　そこはどうか笑って許してやって下さい
これからもがんばって精進していきたいと思いますので　今後とも
どうかおつき合いよろしくお願いします。

最後にもう1度　読者の方々とお世話になった人達へ

"本当にありがとうございました"

向正義

MUKAI　MASAYOSHI

1996, OCTOBER



フランス書院 X COMICS



フィジカル メッセージ

著　者　向 正義

発行所　株式会社フランス書院
東京都千代田区飯田橋3-3-1

電　話　03-5226-5744(営業)
03-5226-5741(編集)

振　替　00160-5-93873

http://www.france.jp

©Masayoshi Mukai Printed in Japan.
定価・発行日はカバーに表示してあります。
落丁・乱丁は当社にてお取替えいたします。